

ID カットガイド (FineCut 使用版)

この度は、カッティングプロッタをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。この「ID カットガイド」では、カッティングプロッタと FineCut (カッティングソフトウェア) を使った ID カット方法と、事前に確認 / 設定していただきたい項目を説明します。

ID カット可能なカッティングプロッタは以下のとおりです。

- CG-FXII Plus シリーズ, CF22-1225, CFL-605RT, CG-AR シリーズ, CFX シリーズ

ご注意

- 本書の一部、または全部を無断で記載したり、複製することは固くお断りいたします。
- 本書は、内容について十分注意しておりますが、万一ご不審な点などがありましたら、販売店または弊社営業所までご連絡ください。
- 本書は、改良のため予告なく変更する場合があります。
- 本書に記載している株式会社ミマキエンジニアリング製ソフトウェアを他のディスクにコピーしたり（バックアップを目的とする場合を除く）、実行する以外の目的でメモリにロードしたりすることを固く禁じます。
- ソフトウェアの改良変更等により、仕様面において本書の記載事項が一部異なる場合があります。
- 株式会社ミマキエンジニアリングの保証規定に定めるものを除き、本製品の使用または使用不能から生ずるいかなる損害（逸失利益、間接損害、特別損害またはその他の金銭的損害を含み、これらに限定しない）に関して一切の責任を負わないものとします。また、株式会社ミマキエンジニアリングに損害の可能性について知られていた場合も同様とします。一例として、本製品を使用してメディア（ワーク、シート）等の損失やメディアを使用して作成された物によって生じた間接的な損失等の責任負担もしないものとします。
- 本書の最新版は、弊社ホームページからもダウンロードできます。

本文中の表記について

- メニューや画面に表示される項目やボタンは、[ファイル] のように [] で囲っています。
- RasterLink6Plus、RasterLink7 と RasterLink8 をまとめて RasterLink と称しています。

本書で使用している画面イメージについて

- RasterLink6Plus の画面イメージを例に説明しています。

マークについて



- 注意していただきたいことや、必ず実行していただきたい内容を説明します。



- 知っていると便利なことを説明します。

RasterLink は株式会社ミマキエンジニアリングの日本ならびにその他の国における商標、または登録商標です。
Adobe、Illustrator は、Adobe Inc. の米国ならびにその他の国における商標、または登録商標です。
Microsoft、Windows は、Microsoft Corporation の米国ならびにその他の国における商標、または登録商標です。
Apple、Macintosh は、Apple Inc. の米国ならびにその他の国における商標、または登録商標です。
その他本書に記載されている会社名、および商品名は各社の日本ならびにその他の国における商標、または登録商標です。

目次

ID カットとは.....	3
ID カットの手順	5
準備する	5
1. CuttingLink - Server PC をセットアップする	7
2. RasterLink PC をセットアップする	9
3. カuttingプロッタで ID カットの準備をする	11
印刷、ID カットする	13
4. データを編集、送信する	14
5. プリンタにメディア (ワーク、シート) をセットする	18
6. 印刷データを出力する	19
7. カuttingプロッタで ID カットする	20
こんなときは.....	22
トラブルシューティング	22
CuttingLink - Server を変更した	25
CuttingLink - Server のデータをバックアップしたい	25
CuttingLink - Server を移行したい	25
1. 移行前の CuttingLink - Server PC で初期設定をリセットする	25
2. 移行先の CuttingLink - Server PC で Server の設定を行う	25
3. RasterLink で CuttingLink - Server PC を再登録する	25
CuttingLink - Client はどんな場合に使うの?	26
CuttingLink - Client の設定方法	27
裏面カットしたい (CF22-1225 のみ)	28
RasterLink でデータをコピーして ID カットしたい	29
RasterLink で面付けして ID カットしたい	31
複数の種類のデータを ID カットしたい (CF22-1225)	33
複数の種類のデータを ID カットしたい (CG-FXII Plus、CG-AR シリーズ)	35
複数の種類のデータを ID カットしたい (CFX シリーズ)	37
クリア / プライマーデータと合成する場合に印刷位置がずれる	39
PDF 形式で ID カット出力すると、プリントデータが RasterLink に正しく送信されない	42

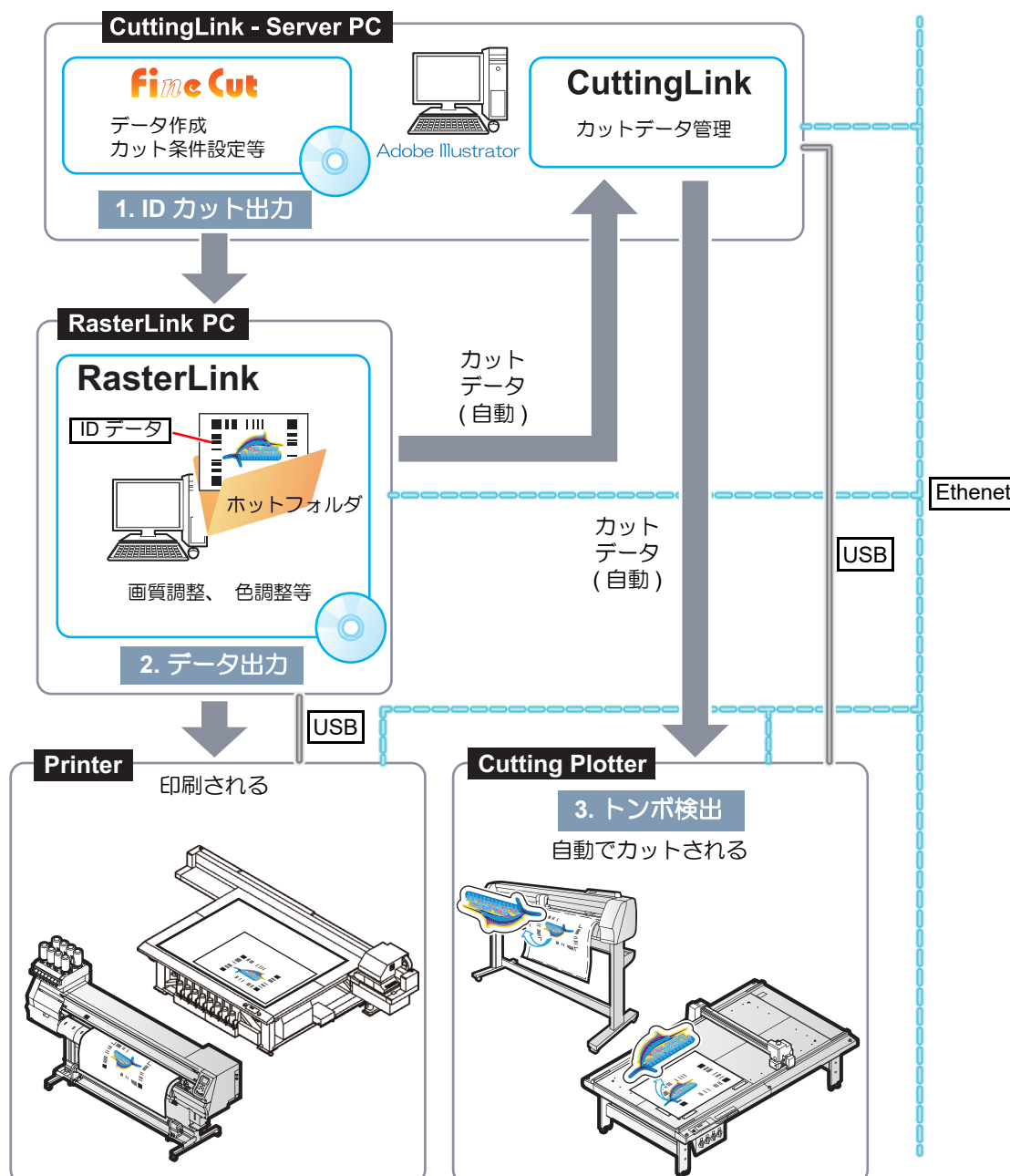
ID カットとは

プリンタで ID 付きのデータを印刷し、カッティングプロッタで ID を検出すると自動でカットできる機能です。データを印刷後、改めてカットデータを入力する必要がありません。(通常は印刷データとカットデータを別々に出力します。)

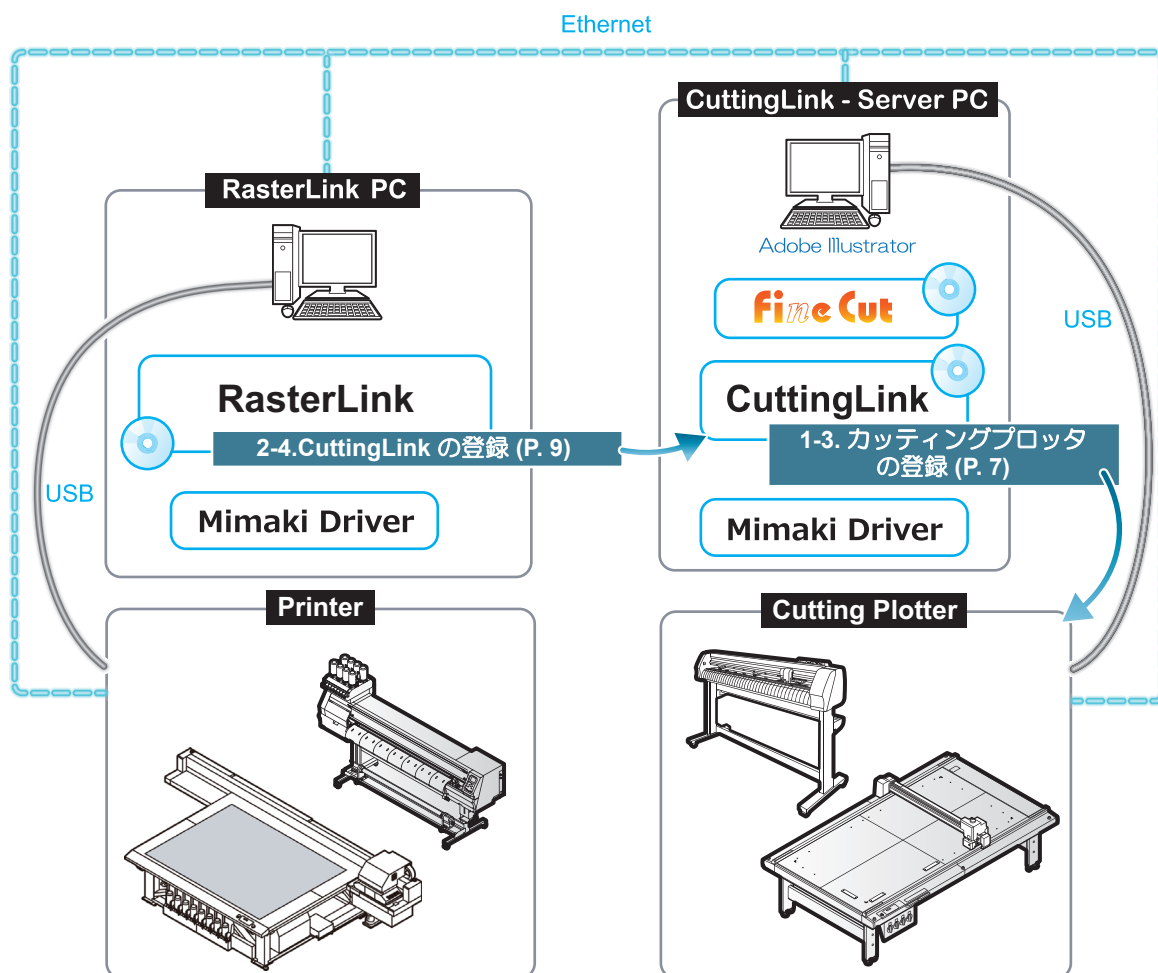
本書では、FineCutを使用した場合のIDカットの基本的な流れを説明します。一例として"CuttingLink - Server PC"に CuttingLink、Adobe Illustrator、FineCut をインストールし、"RasterLink - PC"に RasterLink をインストールした場合について説明します。(ID カットは FineCut を使用せず、RasterLink から行うこともできます。)

詳細な設定、手順については、カッティングプロッタの取扱説明書、使用するプリンタの取扱説明書、FineCut(/Coat) リファレンスガイド、RasterLink インストールガイドを参照してください。

・ ID カットフロー



• システム構成



ID カットの手順

1. CuttingLink - Server PC をセットアップする (P.7)
2. RasterLink PC をセットアップする (P.9)
3. カuttingプロッタで ID カットの準備をする (P.11)
4. データを編集、送信する (P.14)
5. プリンタにメディア (ワーク、シート) をセットする (P.18)
6. 印刷データを出力する (P.19)
7. カuttingプロッタで ID カットする (P.20)

準備する

印刷や ID カットをする前に、プリンタやカuttingプロッタ、ソフトウェアの準備が必要になります。既に準備が済んでいる場合は次の手順に進んでください。

・ソフトウェア / ドライバー 一覧

ID カットに必要なソフトウェアは以下のとおりです。ソフトウェアは全てミマキエンジニアリング製です。

ソフトウェア*1 / ドライバー	説明
FineCut8 Ver.8.7 以上 (CF22-1225) Ver.8.7.5 以上 (CFL-605RT) FineCut9 Ver.9.1 以上 (CG-FXII Plus シリーズ) FineCut/Coat9 Ver.9.2.3 以上 (CG-AR シリーズ) Ver.9.3.0 以上 (CFX シリーズ)	カuttingソフトウェアです。 • FineCut8: CD (カuttingプロッタ同梱品) • FineCut/Coat9: SW パッケージ用梱包箱 (カuttingプロッター同梱品) FineCut/Coat9 のインストーラーは弊社ホームページ (https://japan.mimaki.com/download/software.html) よりダウンロードしてください。(FineCut8 の製品 CD-ROM をお持ちの場合、FineCut/Coat9 へ無償アップグレードできます) インストール方法については FineCut(/Coat) リファレンスガイド 第 1 章 「FineCut(/Coat) のインストール」 を参照してください。

ソフトウェア ^{*1} / ドライバー	説明
RasterLink RasterLink6Plus Ver.1.2 以上 RasterLink7 Ver.1.1 以上 RasterLink8 Ver.1.0.0 以上	画像データを受け、多彩な編集を行い、プリンターに作画データを送信するソフトウェアです。 • RasterLink6Plus: CD (プリンター同梱品) • RasterLink7: SW パッケージ用梱包箱 (プリンター同梱品) RasterLink7 のインストーラーは弊社ホームページ (https://japan.mimaki.com/download/software.html) よりダウンロードしてください。 • RasterLink8: インストーラーは弊社ホームページ (https://japan.mimaki.com/download/software.html) よりダウンロードまたは、MA2 よりインストールしてください。 インストール方法については「RasterLink インストールガイド」または「Mimaki Application Assistant ユーザーズガイド」を参照してください。
CuttingLink Ver.1.1.8 以上	ID カットを管理するソフトウェアです。 弊社ホームページの RasterLink ダウンロードサイト (https://japan.mimaki.com/product/software/rip/raster-link6plus/download.html) または https://japan.mimaki.com/download/software.html よりインストーラーをダウンロードしてインストールしてください。 インストール方法については RasterLink インストールガイド 「CuttingLink のインストール」を参照してください。
Mimaki ドライバー	ミマキエンジニアリング製のインクジェットプリンタ / カutting プロッタを使用するためのデバイスドライバーです。 • RasterLink6Plus をお使いの場合 : CD (プリンター同梱品) • RasterLink7 をお使いの場合 : 使用する機種ごとに Mimaki ドライバーをインストールしてください。各機種用の Mimaki ドライバーは弊社公式ウェブサイト (https://japan.mimaki.com/) からダウンロードできます。

*1.所定のバージョン未満のソフトウェアをお使いの場合は、弊社ホームページ (<https://japan.mimaki.com/download/software.html>) よりバージョンアップ版インストーラーをダウンロードしてインストールしてください。

本書の例では、以下のように 2 台の PC (CuttingLink - Server PC、RasterLink PC) を用意し、ソフトウェア / ドライバーをインストールしてください。

ソフトウェア / ドライバー	セットアップする PC	
	CuttingLink - Server PC	RasterLink PC
FineCut(/Coat)	インストールする	—
RasterLink	—	インストールする
CuttingLink	インストールする	—
Mimaki ドライバー	インストールする	インストールする

1. CuttingLink - Server PC をセットアップする

1. CuttingLink - Server PC とカッティングプロッタを USB または Ethernet で接続する。
 - CG-FXII Plus は Ethernet で接続できません。
2. ソフトウェア/ドライバをインストールする。
 - (1) FineCut をインストールする。
 - (2) Mimaki ドライバをインストールする。
 - (3) CuttingLink をインストールする。
3. CuttingLink でカッティングプロッタを登録する。

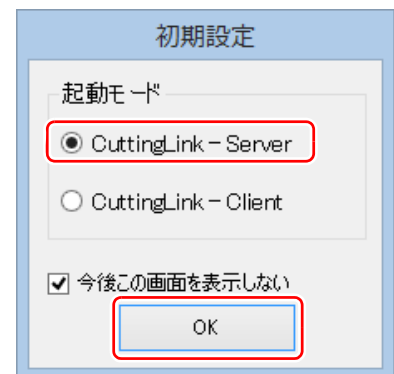
- (1) スタートメニューから CuttingLink を起動するか、またはデスクトップに作成される CuttingLink のアイコンをダブルクリックして CuttingLink を起動する。



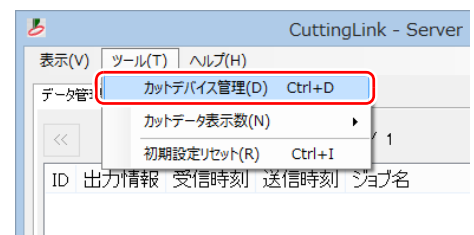
- CuttingLink で [初期設定] 画面が表示されます。

- (2) [初期設定] 画面で [CuttingLink - Server] を選択して [OK] をクリックする。

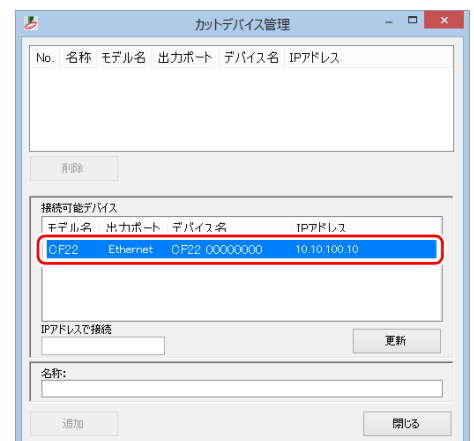
- [データ管理画面] が表示されます。



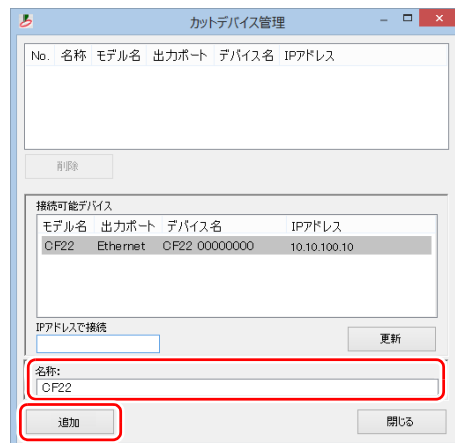
- (3) [ツール] メニューの [カットデバイス管理] を選択する。



- (4) [接続可能デバイス] でカッティングプロッタを選択する。



- (5) [名称] を入力し、[追加] をクリックする。
- 一覧にカッティングプロッタが追加されます。



カッタデバイス管理

No.	名称	モデル名	出力ポート	デバイス名	IPアドレス
-----	----	------	-------	-------	--------

削除

接続可能デバイス

モデル名	出力ポート	デバイス名	IPアドレス
CF22	Ethernet	CF22 00000000	10.10.100.10

IPアドレスで接続

更新

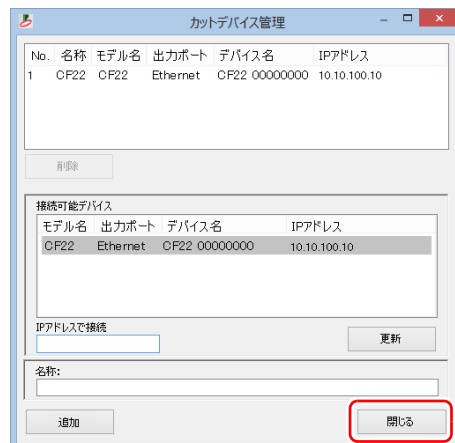
名称:

CF22

追加

閉じる

- (6) [閉じる] をクリックする。



カッタデバイス管理

No.	名称	モデル名	出力ポート	デバイス名	IPアドレス
1	CF22	CF22	Ethernet	CF22 00000000	10.10.100.10

削除

接続可能デバイス

モデル名	出力ポート	デバイス名	IPアドレス
CF22	Ethernet	CF22 00000000	10.10.100.10

IPアドレスで接続

更新

名称:

追加

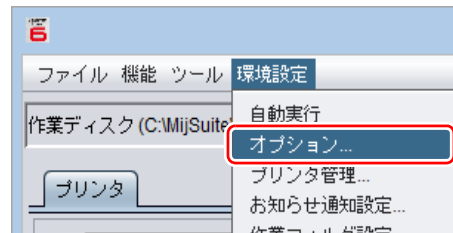
閉じる



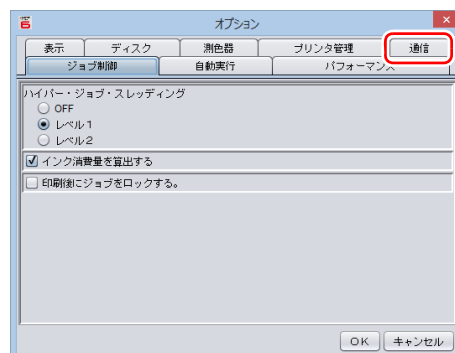
- CuttingLink は PC 起動時に自動で起動されます。

2. RasterLink PC をセットアップする

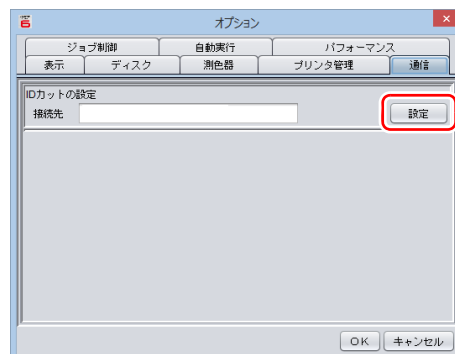
1. ソフトウェア/ドライバをインストールする。
 - (1) RasterLink をインストールする。
 - (2) Mimaki ドライバをインストールする。
2. RasterLink - PC と使用するプリンタを USB または Ethernet で接続する。
3. RasterLink でプリンタを登録する。
 - 詳しくは **RasterLink インストールガイド 「プリンターの登録手順」** を参照してください。
4. RasterLink で CuttingLink を登録する。
 - 必ず、CuttingLink - Server PC で CuttingLink が起動されている状態で行ってください。
 - (1) RasterLink を起動する。
 - (2) RasterLink で [環境設定] メニューの [オプション] を選択する。



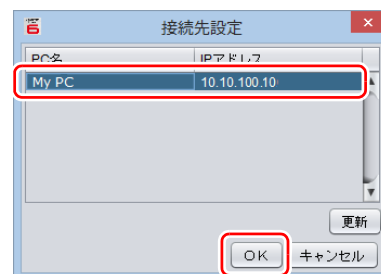
- (3) [オプション] 画面の [通信] タブをクリックする。



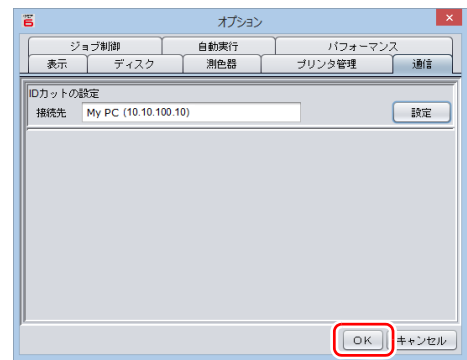
- (4) [ID カットの設定 : 接続先] の [設定] をクリックする。
 - [接続先設定] 画面が表示されます。



- (5) [接続先設定] 画面で CuttingLink がインストールされている PC を選択して、[OK] をクリックする。
 - PC が表示されていない場合は [更新] をクリックしてください。
 - [接続先設定] 画面が閉じます。
 - [オプション] 画面で [接続先] に "PC 名 (IP アドレス)" が表示されます。



- (6) [オプション] 画面で [OK] をクリックする。
- CuttingLink と接続されます。



3. カッティングプロッタで ID カットの準備をする

カッティングプロッタ操作パネルで ID カットに必要な設定を行います。
詳しくはカッティングプロッタの取扱説明書を参照してください。

■ CFL-605RT、CF22-1225 をお使いの場合

1. 電源オン後のモードを "リモート" にする。
 - ・ トンボ検出後、ただちに ID カットを開始するための設定を行います。
 - (1) ローカルモードで [FUNCTION] キーを押す。
 - (2) [∧][V] キーを押して [セッテイ] を選択し、[ENTER] キーを押す。
 - (3) [∧][V] キーを押して [キドウモード] を選択し、[ENTER] キーを押す。
 - (4) [リモート] を選択して [ENTER] キーを押す。
 - (5) [END] キーを押す。
2. トンボ検出を "1 点" にする。
 - ・ 手順 1 に続けて行ってください。
 - (1) [∧][V] キーを押して [トンボケンシュツ] を選択し、[ENTER] キーを押す。
 - (2) [∧][V] キーを押して [ケンシュツ] を選択し、[ENTER] キーを押す。
 - (3) [1 テン] を選択して [ENTER] キーを押す。
 - (4) [END] キーを押す。
3. ID データを読み込めるようにする。
 - ・ 手順 2 に続けて行ってください。
 - (1) [∧][V] キーを押して [データ ID コード] を選択し、[ENTER] キーを押す。
 - (2) [オン] を選択して [ENTER] キーを押す。
 - (3) [END] キーを押して終了する。

■ CG-FXII Plus、CG-AR シリーズをお使いの場合

1. [USB ソウチ No.] を設定する。(CG-FXII Plus のみ)
 - ・ マシンが複数台ある場合は、[USB ソウチ No.] にユニークな番号を設定してください。複数のマシンで [USB ソウチ No.] に同じ番号が設定されていると ID カットを行うことができません。
 - (1) ローカルモードで [FUNCTION] キーを押す。
 - (2) [∧][V] キーを押して [セッテイ] を選択し、[ENTER] キーを押す。
 - (3) [∧][V] キーを押して [USB ソウチ No.] を選択し、[ENTER] キーを押す。
 - (4) [ソウチ No.] に 00 ～ 99 の数値を設定して [ENTER] キーを押す。
2. 電源オン後のモードを "リモート" にする。
 - ・ 手順 1 に続けて行ってください。
 - ・ トンボ検出後、ただちに ID カットを開始するための設定を行います。
 - (1) [∧][V] キーを押して [キドウモード] を選択し、[ENTER] キーを押す。
 - (2) [リモート] を選択して [ENTER] キーを押す。
3. トンボ検出を "1 点" にする。
 - ・ 手順 2 に続けて行ってください。
 - (1) [∧][V] キーを押して [トンボケンシュツ] を選択し、[ENTER] キーを押す。
 - (2) [1 テン] を選択して [ENTER] キーを押す。
4. ID データを読み込めるようにする。
 - ・ 手順 3 に続けて行ってください。
 - (1) [データ ID コード] が表示されるまで [ENTER] キーを押す。
 - (2) [データ ID コード] で [ON] を選択して [ENTER] キーを押す。
 - (3) [END] キーを押して終了する。

■ CFX シリーズをお使いの場合

1. トンボ検出の後のモードを " リモート " にする。
 - (1) ローカルモードで [MENU] を押す。
 - (2) [^][v]キーを押して[マシン設定]>[トンボ検出設定]>[検出後モード]を選択し、[ENTER]キーを押す。
 - (3) [リモート] を選択し、 [ENTER] キーを押す。
 - (4) [END/POWER] キーを数回押してローカルモード画面に戻す。
2. ID データを読み込めるようにする（[連続モード / トグルモード] を使用しない場合）。
 - ・手順 1 に続けて行ってください。
 - (1) ローカルモードで [MENU] を押す。
 - (2) [^][v] キーを押して [マシン設定] > [トンボ検出設定] > [データ ID コード] を選択し、[ENTER] キーを押す。
 - (3) [ON] を選択して [ENTER] キーを押す。
 - (4) [END/POWER] キーを数回押してローカルモード画面に戻す。



[連続モード / トグルモード] を使用する場合

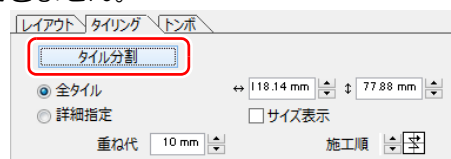
- ・ CFX の取扱説明書「連続カット機能」を参照し、[ID 連携] の設定を行ってください。

印刷、ID カットする

重要!

- 必ず、P. 5 ～ P. 11 の「準備する」を確認してから、プリントおよびカットを行ってください。
- データサイズは縦横 70mm 以上にしてください。70mm より小さいと ID カットできません。
- 以下の機能を使用している場合、ID カットすることはできません。

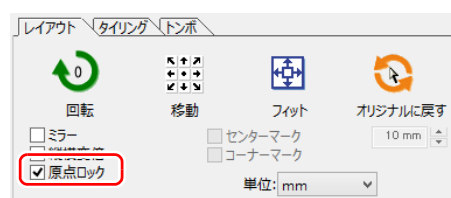
(1) [プロット] 画面 - [タイリング] タブで、[タイル分割] している場合



(2) CF22-1225、CFL-605RT をお使いの場合
[分割トンボ] を付加してトンボ認識している場合



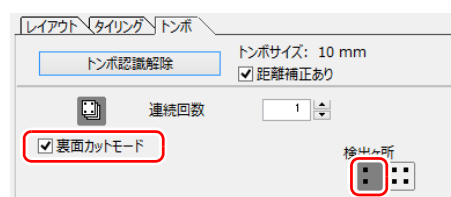
(3) [プロット] 画面 - [レイアウト] タブで、[原点ロック] を OFF にしている場合



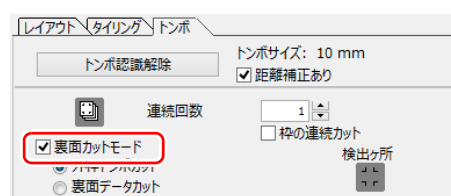
(4) [プロット] 画面で、[枠] と [センターマーク]、[コーナーマーク] を付加している場合



(5) CF22-1225、CFL-605RT をお使いの場合
[プロット] 画面 - [トンボ] タブでトンボ認識後、裏面カットモードで 2 点検出を選択している場合



(6) CFL-605RT をお使いの場合
[プロット] 画面 - [トンボ] タブでトンボ認識後、[裏面カットモード] を選択している場合



(7) CFX シリーズをお使いの場合
トンボ認識をしていない場合、またはフリートンボでトンボ認識をしている場合、または余白なしモードでトンボ認識をしている場合、丸トンボ認識している場合



4. データを編集、送信する

1. イラストとカット線を含むデータを読み込む、または作成する。

■ マニュアル CD が添付されており、サンプルデータが入っている場合

以下の手順でサンプルデータを読み込んで使用してください。

- (1) カuttingプロッタに添付されているマニュアル CD を PC にセットする。
- (2) 以下のフォルダをクリックする。
Windows の場合: “CD ドライブ : \JP\Japanese\ID Cut_Sample data”
Macintosh の場合: “CD ドライブ : \Mac_Japanese\ID Cut_Sample data”
 - “ID Cut_Sample data” フォルダが表示されます。
- (3) “sample_mimaki.ai” をダブルクリックする。
 - Adobe Illustrator が起動し、サンプルデータが読み込まれます。
 - 読み込まれない場合は、Adobe Illustrator の [ファイル] メニューで [開く ...] をクリックして、サンプルファイルを選択して読み込んでください。

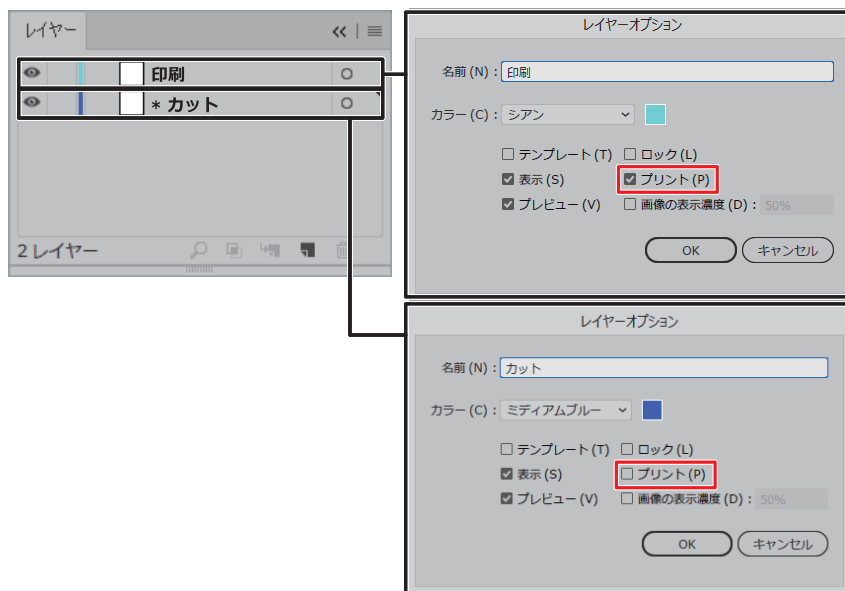
■ マニュアルCDが添付されていない、または添付されているマニュアルCDにサンプルデータが入っていない場合

以下の手順でサンプルデータを作成して使用してください。

- (1) Adobe Illustrator でイラストとカット線を作成する。
- (2) Adobe Illustrator で、イラストデータを印刷用レイヤー (プリント属性 : オン) に、カット線データをカット用レイヤー (プリント属性 : オフ) に配置する。



- スムーズに出力できるように、あらかじめ印刷用レイヤーとカット用レイヤーを作成し、印刷用レイヤーのプリント属性をオン、カット用レイヤーのプリント属性をオフにしてください。
レイヤーのプリント属性のオン / オフは、[レイヤーオプション] の [プリント] チェックボックスで切り替えることができます。



2. トンボを作成する。

重要!

- RasterLink で「データのコピー、印刷条件の設定、面付け」を行いたい場合は、FineCut でトンボを作成しないでください。
その場合、本手順 (手順 2) をスキップして次の手順 3 に進んでください。

- (1) Adobe Illustrator で長方形ツールを使って、カット線を囲うように長方形を作成する。



- (2) 長方形を選択した状態で、FineCut メニューの [トンボ作成] アイコンをクリックする。

- [トンボ作成] 画面が表示されます。



- (3) 本書の例では、[トンボ作成] 画面で以下の作成条件を設定する。

- トンボ形状 : ■■ (セイホウケイ) または ■■ (タイプ 1)
- トンボサイズ : 10 mm

重要!

- トンボのライン上にデータを配置しないでください。
RasterLink でデータ上に ID を付加してしまうことがあります。



トンボの
ライン上



- (4) [OK] をクリックする。

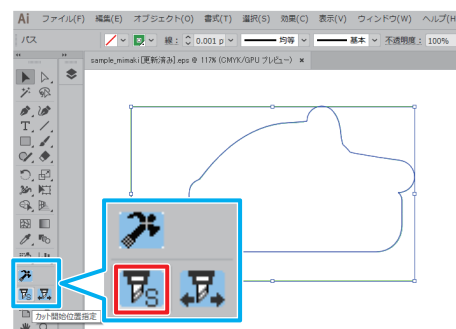
- トンボが [FC トンボレイヤー] に作成されます。

3. カット開始位置を変更する。(任意)

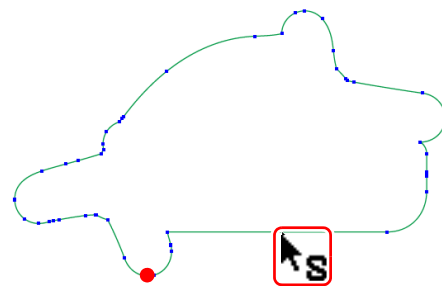
- (1) カットレイヤー以外のレイヤーを非表示にする。

- (2) [カット開始位置指定] アイコンをクリックする。

- カット開始位置変更モードになります。

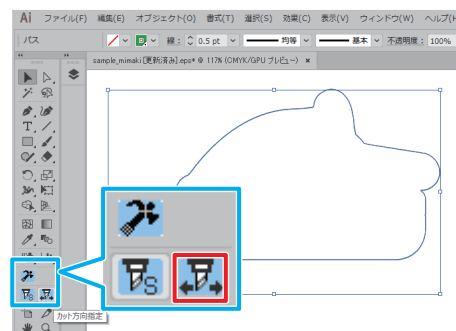


- (3) カット開始位置に指定したい場所をクリックする。
- カット開始位置が変更されます。

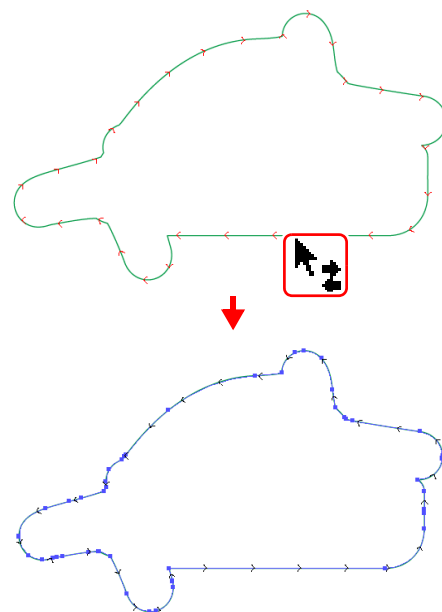


4. カット方向を変更する。(任意)

- (1) カットレイヤー以外のレイヤーを非表示にする。
- (2) [カット方向指定]アイコンをクリックする。
- カット方向指定モードになります。



- (3) カット線上をクリックします。
- カット方向が変更されます。



5. 全てのレイヤーを表示する。
6. FineCut メニューの[プロット]アイコンをクリックする。
- [プロット]画面が表示されます。



7. トンボのカット方法を設定する。

重要!

・ RasterLink で「データのコピー、印刷条件の設定、面付け」を行いたい場合は、FineCut でトンボ認識をしないでください。
その場合、本手順 (手順 7) をスキップして次の手順 8 に進んでください。

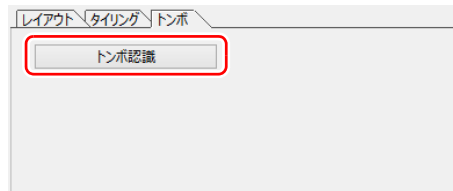
■ FineCut でトンボを作成している場合

(1) プロットダイアログ右上にある [コピー間隔] を設定する。



(2) [トンボ] タブの [トンボ認識] をクリックする。

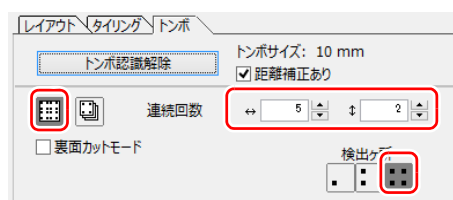
・ トンボ認識されます。



(3) トンボのカット方法を設定する。

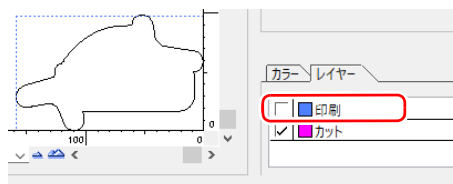
本書の例では以下のように設定してください。

- ・ マルチモード / シングルモード : マルチモード 
- ・ 連続回数 : 5 回、2 回
- ・ 検出ヶ所 : 4 点



8. [レイヤー] タブの印刷用レイヤーのチェックをオフにする。

・ 印刷用レイヤーのチェックをオンにしていると、印刷用レイヤーにあるデータをカットしてしまいます。ご注意ください。



9. ID データを送信する。

(1) [プロット ...] ボタンをクリックする。

・ [プロッタ出力] 画面が表示されます。

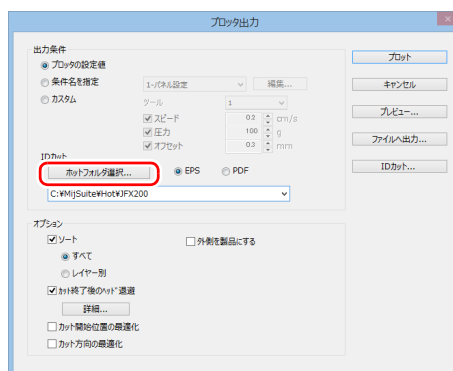


(2) [ホットフォルダ選択 ...] をクリックする。

- ・ RasterLink で作成された使用するプリンタ名のホットフォルダを選択してください。
- ・ ホットフォルダを未作成の場合、RasterLink で作成してください。

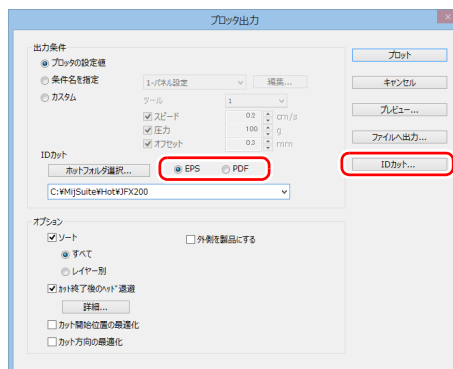
重要!

・ ホットフォルダの選択ダイアログにある [新しいフォルダー] ボタンからフォルダを作成しても、ホットフォルダとして機能しません。ホットフォルダは必ず RasterLink で作成してください。



(3) [EPS] または [PDF] を選択して [ID カット ...] をクリックする。

- ・ データが RasterLink のホットフォルダに送信されます。
- ・ [EPS] を選択した場合、オプション画面で各項目を設定して [OK] をクリックしてください。
- ・ [PDF] を選択した場合、オプション画面で設定を変更せずに [OK] をクリックしてください。



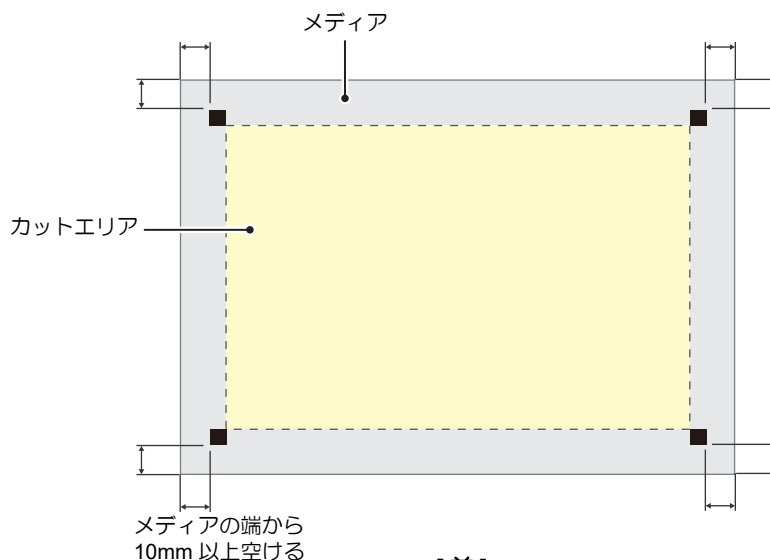
5. プリンタにメディア (ワーク、シート) をセットする

1. プリンタにメディア (ワーク、シート) をセットする。

■ CFL-605RT、CF22-1225、CFX シリーズをお使いの場合

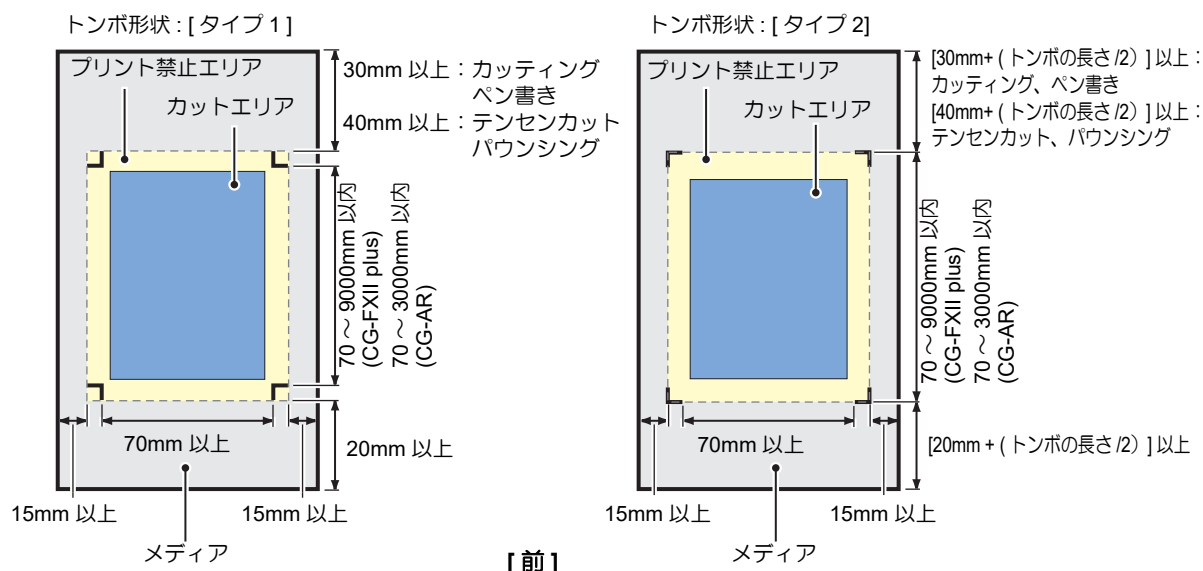
- ・トンボと画像の配置可能範囲は以下の通りです。トンボ 4 点全てがメディアの端から 10mm 以上空くように印刷してください。10mm 以上空いていない場合、カッティングプロッタでカットする際に、カットパネルとメディアの境界線をトンボと間違えてトンボ検出処理を始めてしまうことがあります。

例 トンボ形状 : [セイハウケイ] の場合



■ CG-FXII Plus、CG-AR シリーズをお使いの場合

- ・トンボがピンチローラーにかからないようにしてください。
 - ・メディア余白が以下の数値になるようにメディアをセットしてください。
- トンボ形状が [タイプ 2] の場合は、後端について、以下の数値に「トンボの長さ / 2」を足してください。

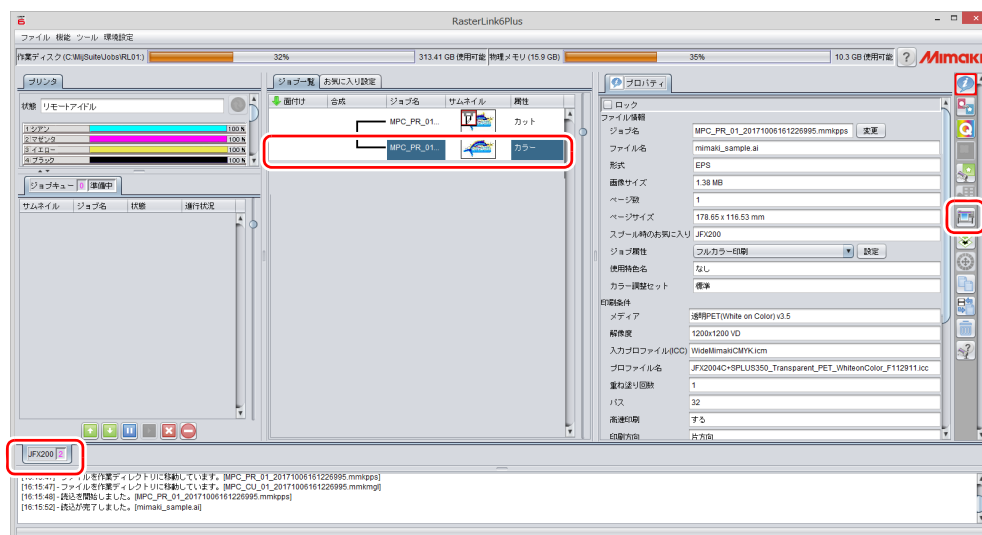


2. ローカルモードで [REMOTE] キーを押す。

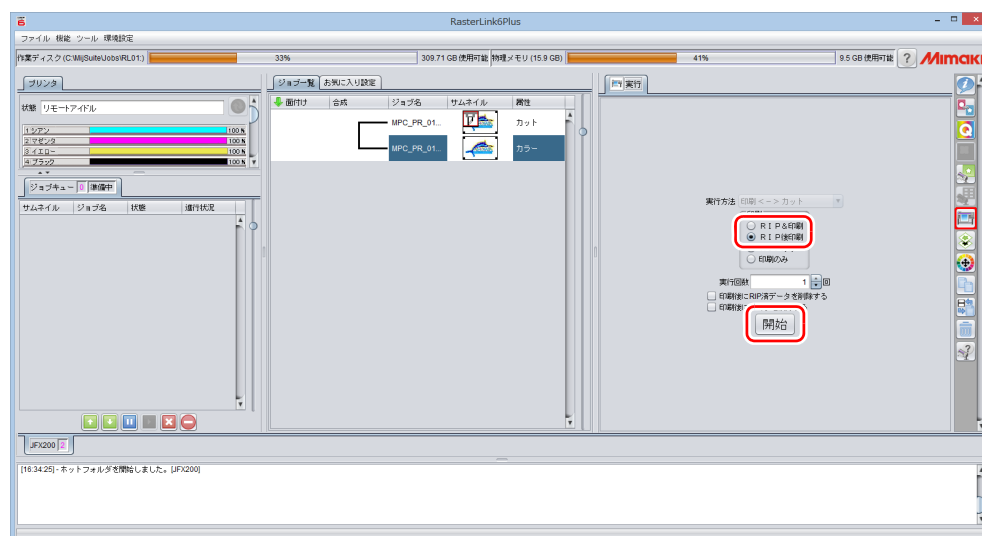
- ・リモート状態になります。

6. 印刷データを出力する

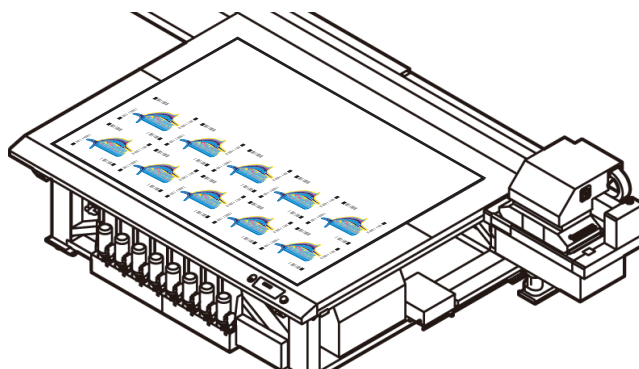
1. RasterLink を起動する。
 - FineCut で保存したデータが自動で読み込まれます。
2. [プリンタ名] タブの [ジョブ一覧] に読み込まれたファイルを選択する。
 - [ジョブ一覧] で ID カットを行うファイルを選択します。



3. 画面右の [機能アイコン] 一覧で  (実行) を選択する。
4. [RIP & 印刷] または [RIP 後印刷] を選択する。

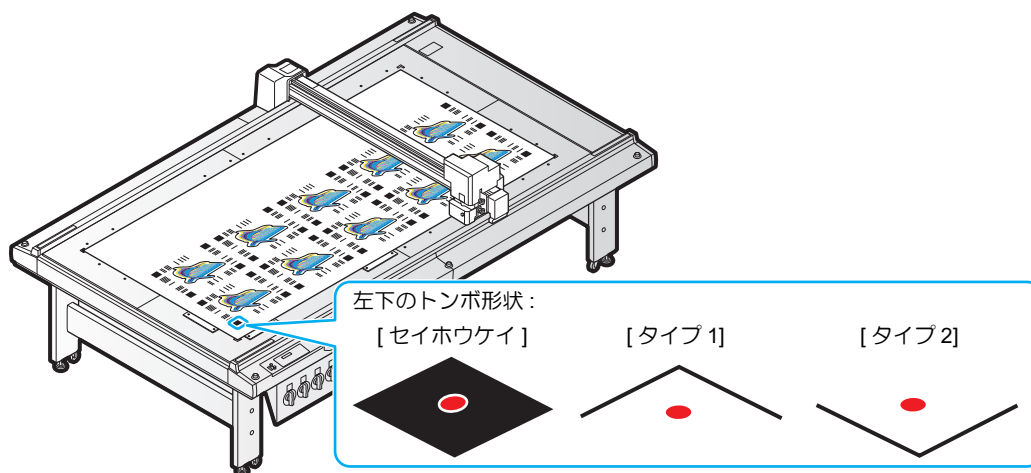


5. [開始] をクリックする。
 - ID 付きデータが印刷されます。

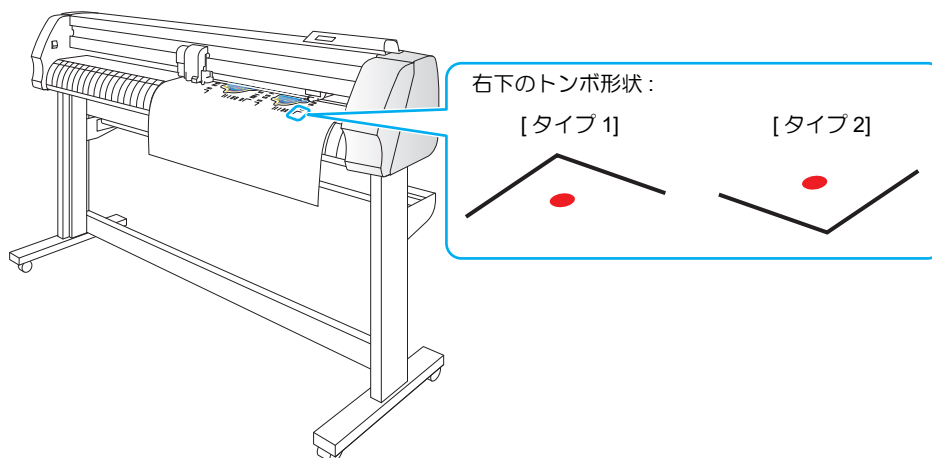


7. カッティングプロッタで ID カットする

1. カッティングプロッタに印刷済のメディア (ワーク、シート) をセットする。
 - 0°、90°、180°、270° のどの向きにメディアをセットしても ID カットできます。
 - ただし、異なる種類のトンボを自動で連続カットしたい場合は 0° または 180° の向きでメディアをセットしてください。
 - メディアが傾いているとトンボが検出できないことがあります。
2. トンボを検出する。
 - CFL-605RT、CF22-1225 をお使いの場合
 - (1) ローカルで [END] キーを押す。
 - トンボ検出モードになります。
 - (2) ジョグキーを押して、メディア左下のトンボの中央近くにライトポインターを移動する。
 - (3) [ENTER] キーを押す。
 - トンボ検出が開始されます。

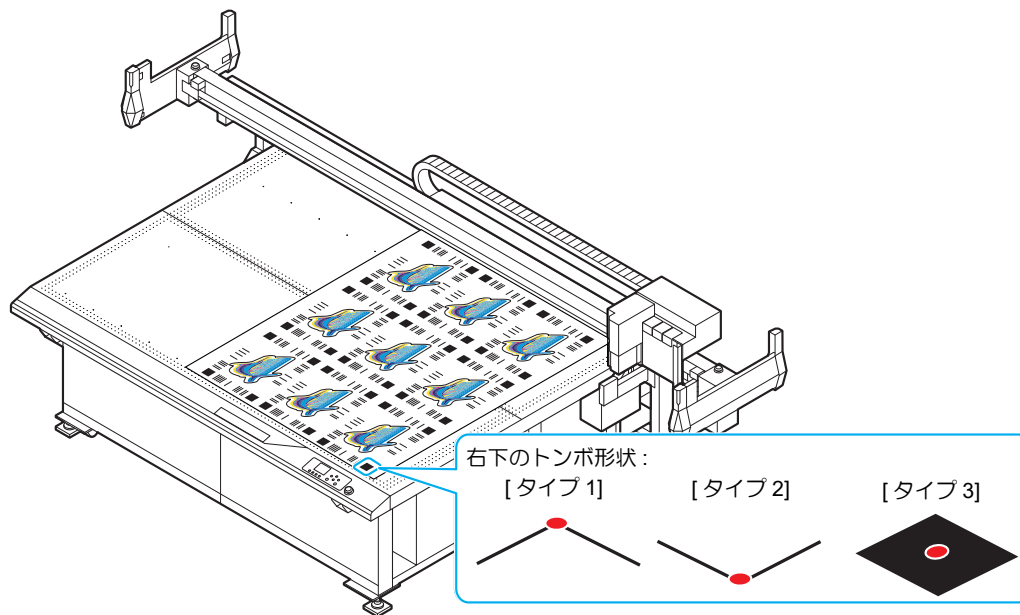


- CG-FXII Plus、CG-AR シリーズをお使いの場合
 - (1) ローカルで [END] キーを押す。
 - トンボ検出モードになります。
 - (2) ジョグキーを押して、メディア右下のトンボの中央近くにライトポインターを移動する。
 - (3) [ENTER] キーを押す。
 - トンボ検出が開始されます。



■ CFX シリーズをお使いの場合

- (1) ローカルモード画面でジョグキーを押し、トンボ原点検出を実行する。
 - ・トンボ検出モードになります。
- (2) ジョグキーを押して、メディア右下のトンボの中央近くにライトポインターを移動する。
- (3) [ENTER] キーを押す。
 - ・トンボ検出が開始されます。



3. 自動でカットされます。

トラブルシューティング

RasterLink で [ID カット] チェックボックスが無効になっている。

ジョブのデータサイズは 70mm 以上ありますか？

いいえ

データサイズを 70mm 以上にしてください。

↓ はい

トンボ形状は "タイプ 1" または "タイプ 2" または "正方形" を選択していますか？

いいえ

トンボ形状の選択で、"タイプ 1" または "タイプ 2" または "正方形" を選択してください。

↓ はい

コールセンターに問い合わせてください。

RasterLink のメッセージ表示欄に「ID カット用の ID が取得できませんでした。印刷を中断します。」エラーメッセージが表示されて印刷できない。

CuttingLink - Server PC と Ethernet で接続していますか？

いいえ

Ethernet で接続してください。
(☞ P.9 「RasterLink で CuttingLink を登録する。」)

↓ はい

CuttingLink - Server PC で CuttingLink が起動されていますか？

いいえ

CuttingLink - Server PC で CuttingLink を起動してください。

↓ はい

RasterLink で CuttingLink - Server PC を正しく登録していますか？
以下の内容を確認してください。
RasterLink[環境設定]メニュー - [オプション] - [通信] タブで、"ID カットの設定" - "接続先" に CuttingLink - Server 名が表示されていますか？

いいえ

CuttingLink - Server PC 名を登録しなおしてください。
(☞ P.9 「RasterLink で CuttingLink を登録する。」)

↓ はい

登録している CuttingLink - Server PC と接続していますか？
以下の手順で確認してください。
(1) RasterLink[環境設定]メニュー - [オプション] - [通信] タブで、"ID カットの設定" - "接続先" の [設定] をクリックしてください。
(2) [接続先設定] 画面で [更新] をクリックしてください。
(3) 登録している CuttingLink - Server PC 名が表示されていますか？

いいえ

CuttingLink - Server PC 名を登録しなおしてください。
・CuttingLink - Server PC のアドレスが変更された場合は、再登録が必要です。
(☞ P.9 「RasterLink で CuttingLink を登録する。」)

↓ はい

コールセンターに問い合わせてください。

カッティングプロッタでトンボ検出しても、ID カットされない。



CuttingLink - Server PC とカッティングプロッタを USB または Ethernet で接続していますか？

いいえ

USB または Ethernet で接続してください。
(P.7 「CuttingLink - Server PC とカッティングプロッタを USB または Ethernet で接続する。」)

↓ はい

CuttingLink - Server でカッティングプロッタを正しく登録していますか？
CuttingLink - Server の [カットデバイス情報] タブで以下の内容を確認してください。
(1) [出力ポート] が物理的に接続しているものと同じですか？ (USB/Ethernet)
(2) [デバイス名] に表示されているシリアル No. がカッティングプロッタ本体のシリアル No. と同じですか？

いいえ

CuttingLink でカッティングプロッタを登録してください。(P.7 「CuttingLink でカッティングプロッタを登録する。」)

↓ はい

カッティングプロッタで ID カットの設定は正しいですか？
操作パネルで以下の内容を確認してください。
(1) [(トンボ) サイズ] と [(トンボ) ケイジョウ] が印刷トンボデータと同じになっていますか？
(2) [データ ID コード] はオン (ON) になっていますか？

いいえ

- (1) カッティングプロッタで印刷トンボデータと同じトンボ形状とサイズを設定してください。
- (2) カッティングプロッタで [データ ID コード] をオンにしてください。(P.11 「ID データを読み込めるようにする。」)

↓ はい

コールセンターに問い合わせてください。

ID の異なるトンボを複数面付けしているが、連続カットしない。(CG-FXII Plus シリーズ、CF22-1225、CFX シリーズ)

CFL-605RT をお使いの場合は、自動で複数の種類の ID データを連続カットすることはできません。

印刷したトンボの形状とサイズは全て同じですか？

いいえ

トンボの形状とサイズを全て同じにしてください。

↓ はい

カッティングプロッタで [トンボタンサク] がオン (ON) になっていますか？

いいえ

[トンボタンサク] をオンにしてください。
CF22-1225:  P. 34
CG-FXII Plus:  P. 35
CFX シリーズ:  P. 37

↓ はい

カッティングプロッタで [トンボタンサク] の [スキャンハバ] と [タンサクハバ] の数値は適当ですか？

いいえ

正しい数値を入力してください。

↓ はい

コールセンターに問い合わせてください。

CuttingLink - Server を変更した

再度、RasterLink で CuttingLink の登録を行ってください。

(☞ P.9 「RasterLink で CuttingLink を登録する。」)

CuttingLink - Server のデータをバックアップしたい

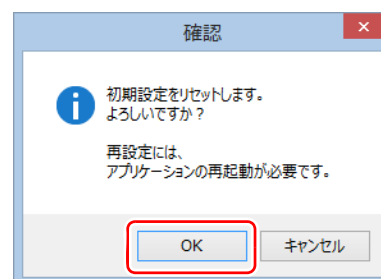
以下のフォルダをバックアップしてください。

C:\MimakiTools\CuttingLink\DT

CuttingLink - Server を移行したい

1. 移行前の CuttingLink - Server PC で初期設定をリセットする

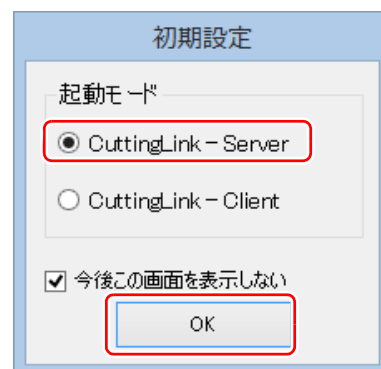
1. CuttingLink - Server のデータをバックアップする。
(☞ P.25 「CuttingLink - Server のデータをバックアップしたい」 参照)
2. [ツール] メニュー - [初期設定リセット] を選択して [OK] ボタンをクリックする。



3. CuttingLink を終了する。

2. 移行先の CuttingLink - Server PC で Server の設定を行う

1. CuttingLink をインストールし、起動する。
 - ・インストール後 PC を再起動すると、CuttingLink が自動で起動されるようになります。
2. [初期設定] 画面で [CuttingLink - Server] を選択して [OK] をクリックする。



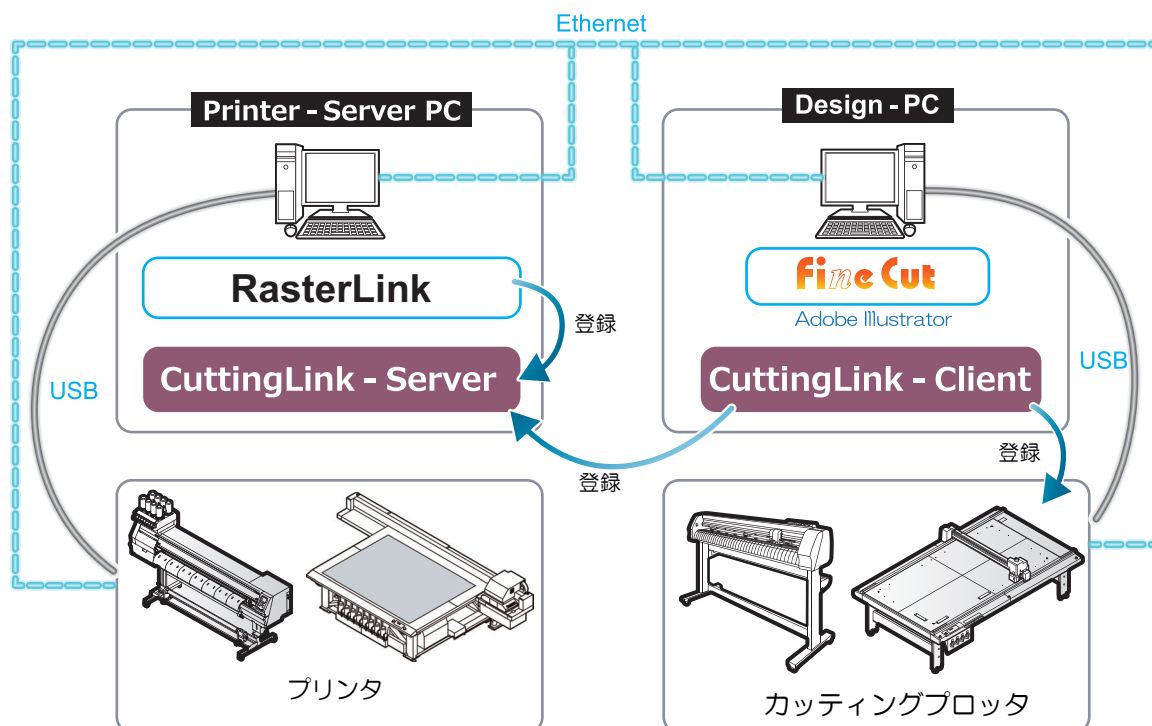
3. CuttingLink を終了する。
4. 移行前の PC でバックアップしておいたデータを以下のフォルダにコピーする。
 - ・C:\MimakiTools\CuttingLink\DT
5. CuttingLink を起動する。
6. カuttingプロッタを登録する。
(☞ P.7 「CuttingLink でカuttingプロッタを登録する。」 (3) ~ (6) 参照)

3. RasterLink で CuttingLink - Server PC を再登録する

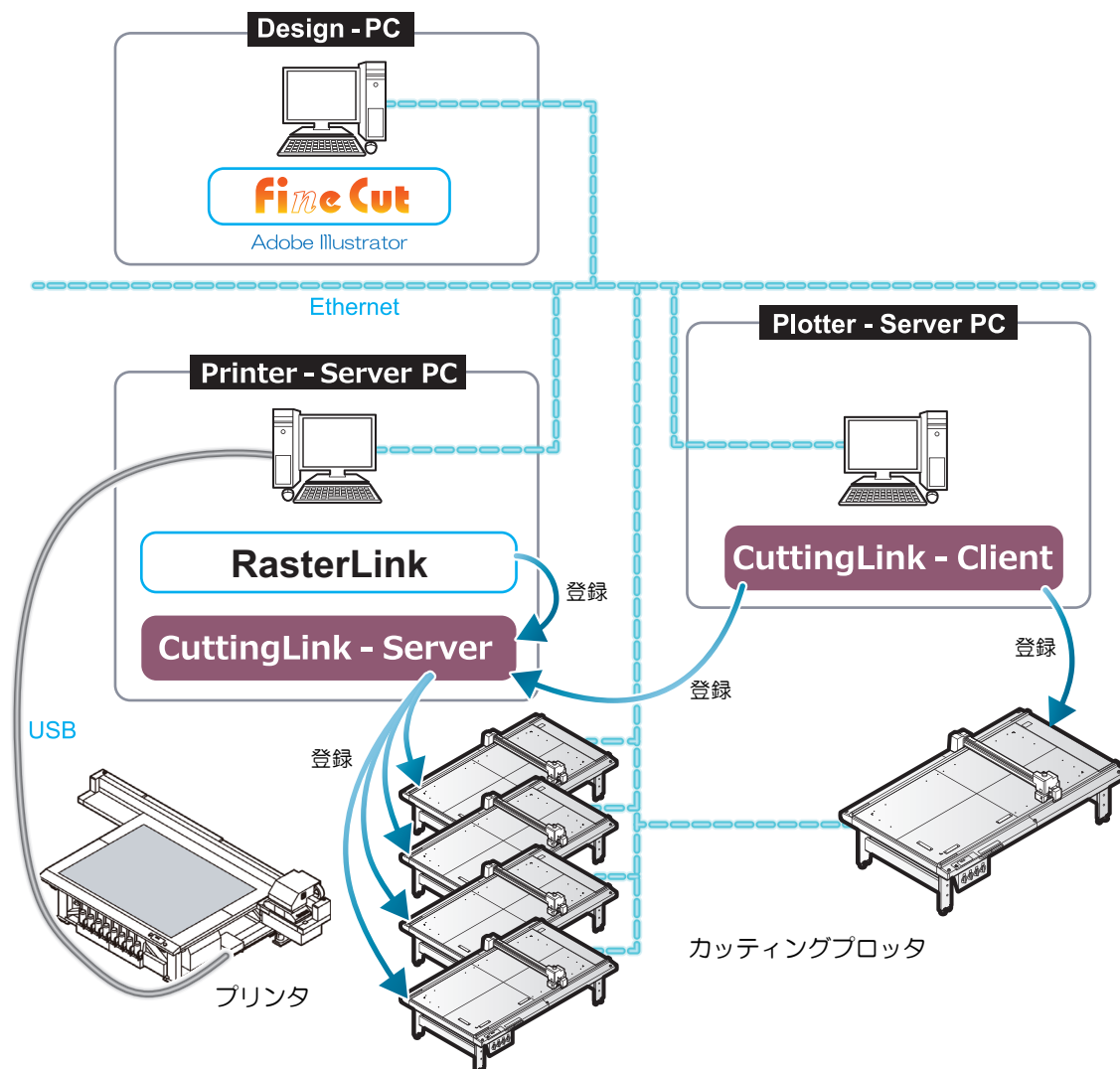
(☞ P.9 「2. RasterLink PC をセットアップする」)

CuttingLink - Client はどうな場合に使うの？

例 1) プリンタとカッティングプロッタを別々の PC に接続している場合

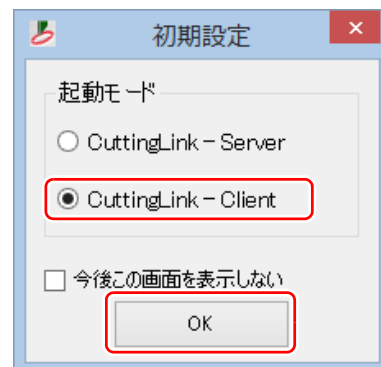


例 2) カッティングプロッタを 5 台以上接続する場合 (CFL-605RT、CF22-1225、CFX シリーズのみ)

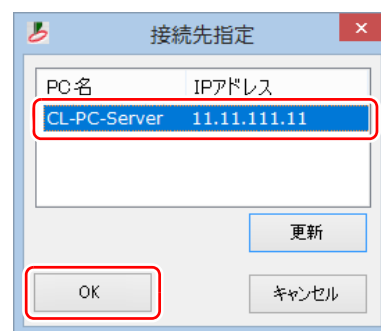


CuttingLink - Client の設定方法

1. プリンタを接続している PC に CuttingLink をインストールし、CuttingLink - Server に設定する。(参照 P.7 「CuttingLink をインストールする。」～)
2. カuttingプロッタを接続している PC に CuttingLink をインストールし、CuttingLink - Client に設定する。
 - (1) カuttingプロッタが接続されている PC に CuttingLink をインストールし、起動する。
 - (2) [初期設定] 画面で [CuttingLink - Client] を選択し、[OK] をクリックする。



- (3) [接続先指定] の一覧で、接続する CuttingLink - Server を選択し [OK] をクリックする。
 - 必ず、CuttingLink - Server PC で CuttingLink が起動されている状態で行ってください。
 - [接続先指定] 画面が表示されない場合は、[ツール] メニューの [接続先指定] を選択してください。
 - PC 名が表示されていない場合は [更新] をクリックしてください。



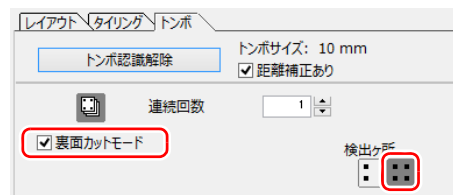
裏面カットしたい (CF22-1225 のみ)

CF22-1225 をお使いの場合に使用できる機能です。

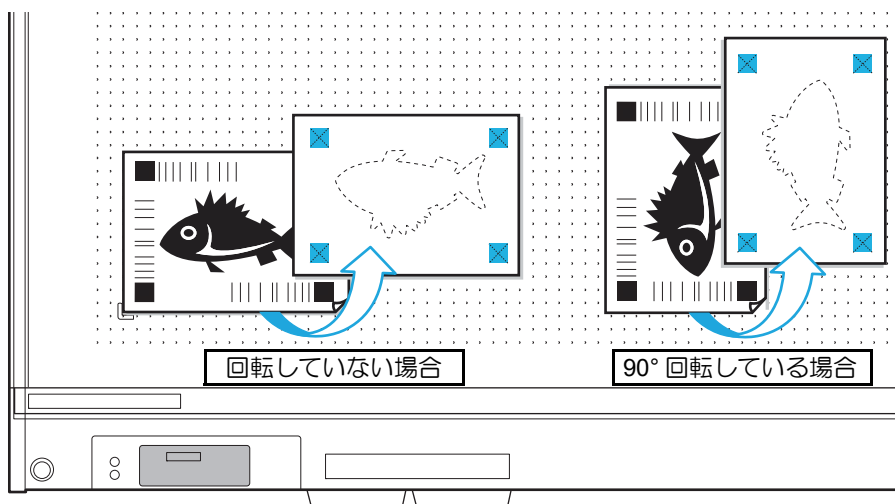
裏面カットについては、以下のマニュアルを参照してください。

- FineCut リファレンスガイド 第3章 「カットする」 - 「カッティングプロッタ名」 - 「裏面カット」
- カッティングプロッタ取扱説明書 第4章 「トンボ読み取り機能」 - 「カットと印刷を連携する」 - 「裏面カット」

1. FineCut のプロット画面で [裏面カットモード] にチェックを付ける。
2. 4点検出を選択する。
 - 2点検出を選択すると裏面カットすることができません。



3. FineCut で ID カット出力する。(☞ P.17 「ID データを送信する。」)
4. RasterLink でデータを出力する。(☞ P.19 「6. 印刷データを出力する」)
5. カッティングプロッタに印刷面を上にしてメディア (ワーク) をセットする。
 - 0°、90°、180°、270° のどの向きにメディアをセットしても ID カットできます。
6. トンボを検出すると自動で表面トンボカットされる。
7. メディアを裏返す。



•必ずパネル位置から見て上下 (手前から奥) に裏返してください。

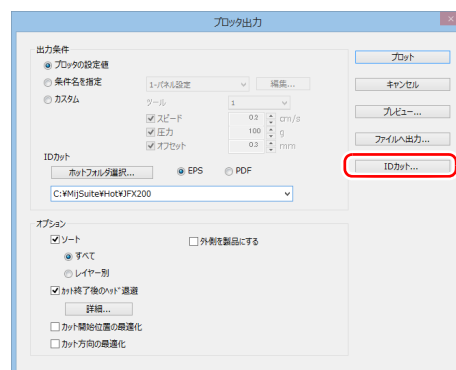
8. マークチップを埋め込む。
9. トンボ検出すると自動で裏面カットが開始される。

RasterLink でデータをコピーして ID カットしたい

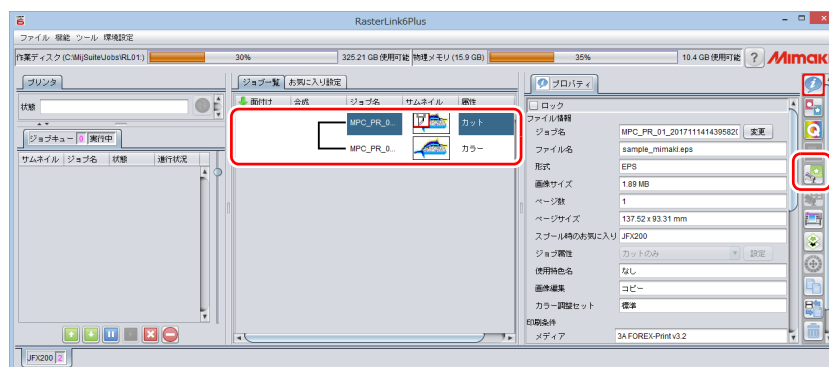
1. Adobe Illustrator でプリント & カットデータを作成する。
 - ・イラストデータを印刷用レイヤー (プリント属性: オン) に、カット線データをカット用レイヤー (プリント属性: オフ) に配置してください。(P. 14)
 - ・データサイズは縦横 70mm 以上にしてください。

2. FineCut で「トンボ作成、トンボ認識」しないで ID カット出力する。

- ・FineCut で「トンボ作成、トンボ認識」して ID カット出力すると、RasterLink で「データのコピー、印刷条件の設定、面付け」を行うことができません。ご注意ください。
- ・FineCut で ID カット出力するとデータは RasterLink に自動送信されます。(P. 17)



3. RasterLink を起動する。
4. RasterLink で読み込まれたデータを選択して、画面右の機能アイコン一覧で「通常印刷」アイコンをクリックする。



5. 印刷条件の設定を行う。
 - (1) “スケール”を設定する。(任意)
 - ・FineCut から送信した ID 付きデータについては、スケールの設定はできません。
 - (2) “回転”、“ミラー”を設定する。(任意)
 - (3) “移動”の“幅”、“送り”を設定する。(任意)
 - ・10mm 以上の余白をとってメディア (ワーク、シート) をセットしている場合は設定不要です。そうでない場合は、“幅”、“送り”に“10mm”以上の数値を入力してください。
 - (4) “コピー”数を入力する。
 - (5) “配置”の“余白”または“ピッチ”を設定する。
 - ・トンボを付加すると“余白”は自動で以下の数値が設定されます。
トンボ形状が“タイプ 1”または“セイホウケイ”の場合: トンボサイズ
トンボ形状が“タイプ 2”の場合: 0mm
6. トンボと ID データを付加する。
 - (1) トンボ形状を選択する。
 - ・“タイプ 1”または“タイプ 2”または“セイホウケイ” (“セイホウケイ”推奨)
 - (2) トンボサイズを入力する。
 - (3) [ID カット] にチェックを入れる。
 - ・データにトンボと ID データが付加される。
 - ・FineCut から送信した ID 付きデータについては、[ID カット] チェックボックスに既にチェックが入っています。チェックを外すことはできません。

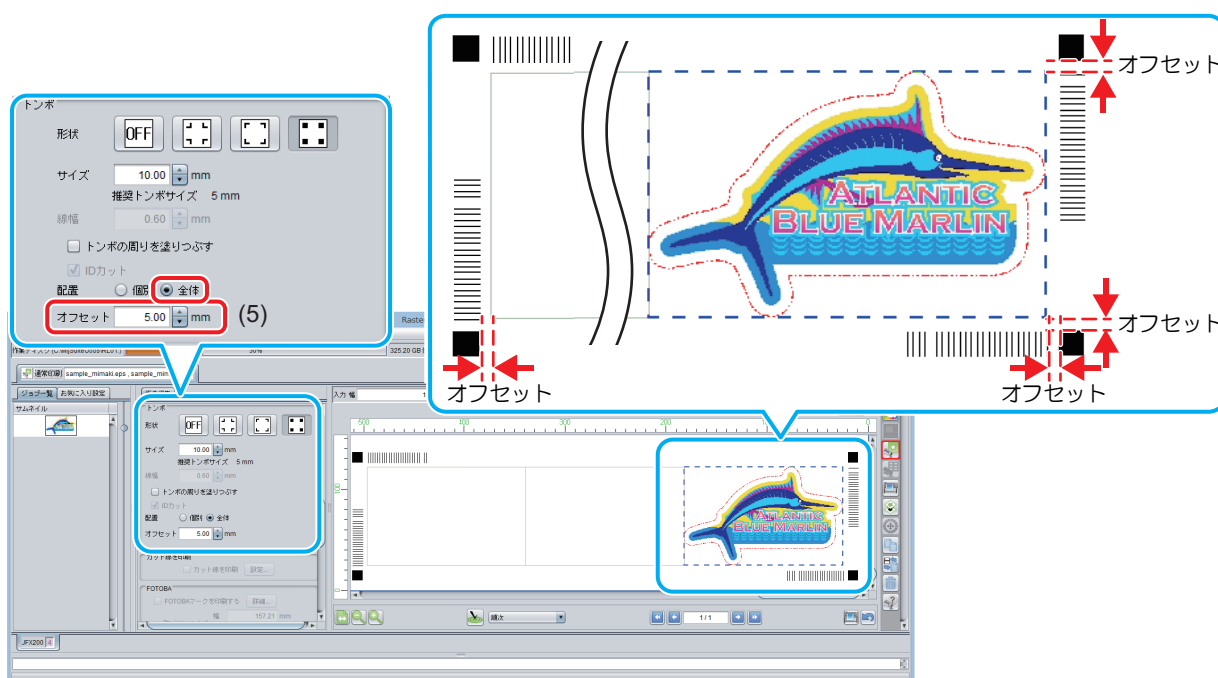
(4) トンボの [配置] を選択する。

- ・ 個別：データ1つごとにトンボと ID データが付加されます。
- ・ 全体：コピーした全てのデータを囲うようにトンボと ID データが付加されます。



(5) 手順(4)で”全体”を選択した場合に”オフセット”を設定する。

- ・ オフセット：データとトンボの余白



7. RasterLink でデータを出力する。(☞ P.19 「6. 印刷データを出力する」)

- ・ ID 付きデータが印刷されます。

8. カッティングプロッタに印刷済のメディアをセットする。(☞ P.20 「カッティングプロッタに印刷済のメディア(ワーク、シート)をセットする。」)

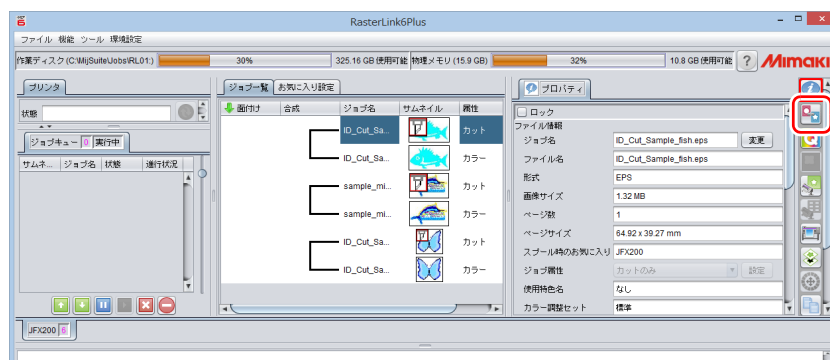
9. トンボ検出すると自動で ID カットが開始される。(☞ P.20 「トンボを検出する。」)

RasterLink で面付けして ID カットしたい

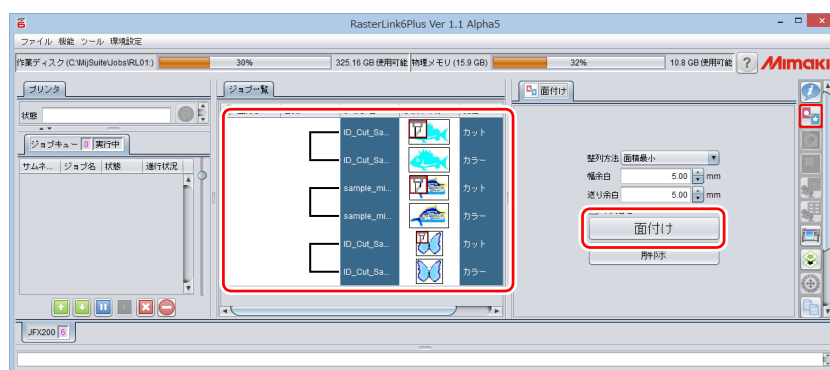
面付けについての詳細な内容は、RasterLink リファレンスガイド「複数の画像を 1 つにまとめる - 面付け」を参照してください。

RasterLink で面付けする場合は、FineCut でトンボ作成 / トンボ認識しないで ID カット出力してください。

1. RasterLink でプリント & カットデータを読み込む。
(P.29 「」)
2. 画面右の機能アイコン一覧で「面付け」アイコンをクリックする。



3. 面付けしたいデータを選択して、整列方法、余白、中央合せの有無を設定し、[面付け]をクリックする。



4. 画面右の機能アイコン一覧で「通常印刷」アイコンをクリックすると、面付けされてプレビューされる。
5. 印刷条件の設定を行う。

ジョブ一覧、またはプレビュー画面で、条件を設定するデータを選択してから設定を行ってください。

- (1) “スケール”を設定する。(任意)

- FineCut から送信した ID 付きデータについてはスケールの設定はできません。

- (2) “回転”、“ミラー”を設定する。(任意)

- (3) “移動”の“幅”、“送り”を設定する。(任意)

- 10mm 以上の余白をとってメディア (ワーク、シート) をセットしている場合は設定不要です。
そうでない場合は、“幅”、“送り”に“10mm”以上の数値を入力してください。

- (4) “コピー”数を入力する。

- (5) “配置”の“余白”または“ピッチ”を設定する。

- トンボを付加すると“余白”は自動で以下の数値が設定されます。

トンボ形状が”タイプ 1”または”セイホウケイ”の場合：トンボサイズ

トンボ形状が”タイプ 2”の場合：0mm

6. トンボと ID データを付加する。

(1) トンボ形状を選択する。

- ・ “タイプ 1 ” または “タイプ 2 ” または “セイハウケイ ” (CF22-1225、 CFL-605RT の場合は “セイハウケイ ” 推奨)

(2) トンボサイズを入力する。

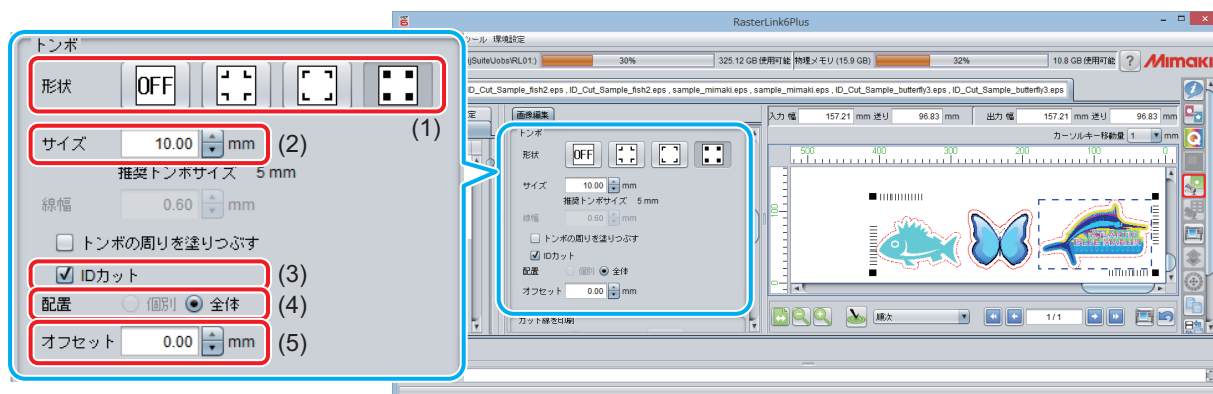
(3) [ID カット] にチェックを入れる。

- ・ データにトンボと ID データが付加されます。
- ・ FineCut から ID カット出力したデータについては、[ID カット] チェックボックスに既にチェックが入っています。チェックを外すことはできません。

(4) 面付けの場合、トンボの [配置] は “全体” が選択される。

- ・ 全体：コピーした全てのデータを囲うようにトンボと ID データが付加されます。

(5) “オフセット” を設定する。(☞ P.30 「手順(4)で“全体”を選択した場合に“オフセット”を設定する。」)



7. RasterLink でデータを出力する。(☞ P.19 「6. 印刷データを出力する」)

- ・ ID 付きデータが印刷されます。

8. カッティングプロッタに印刷済のメディアをセットする。(☞ P.20 「カッティングプロッタに印刷済のメディア (ワーク、シート) をセットする。」)

9. トンボ検出すると自動で ID カットが開始される。(☞ P.20 「トンボを検出する。」)

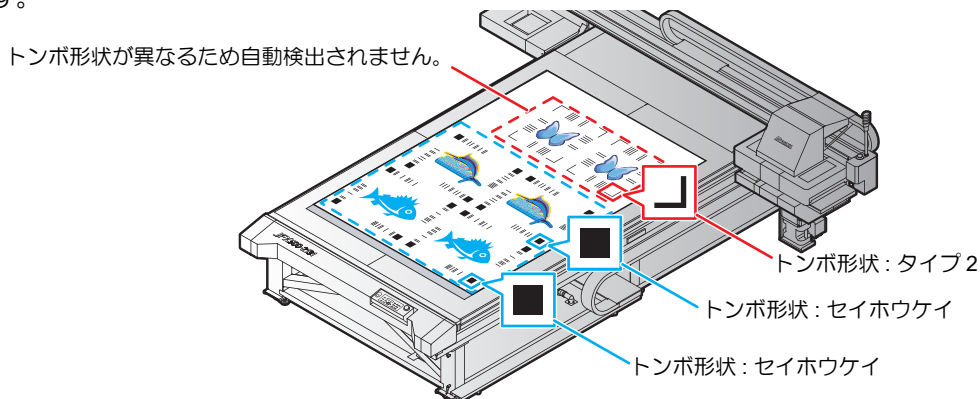
複数の種類のデータを ID カットしたい (CF22-1225)

CF22-1225 をお使いの場合に使用できる機能です。

CFL-605RT をお使いの場合は、自動で複数の種類の ID データを連続カットすることはできません。CFL-605RT で、複数の種類のデータをカットしたい場合は、トンボの種類が変わる度に手動でトンボ検出してください。

1. RasterLink で複数の種類のデータを印刷する。

- 複数のトンボデータを印刷して連続して ID カットを行う場合、トンボの形状とサイズ、回転角度を全て同じにしてください。サイズまたは形状が異なるトンボがある場合は ID カットが中止されます。



2. カuttingプロッタにメディアをセットする。

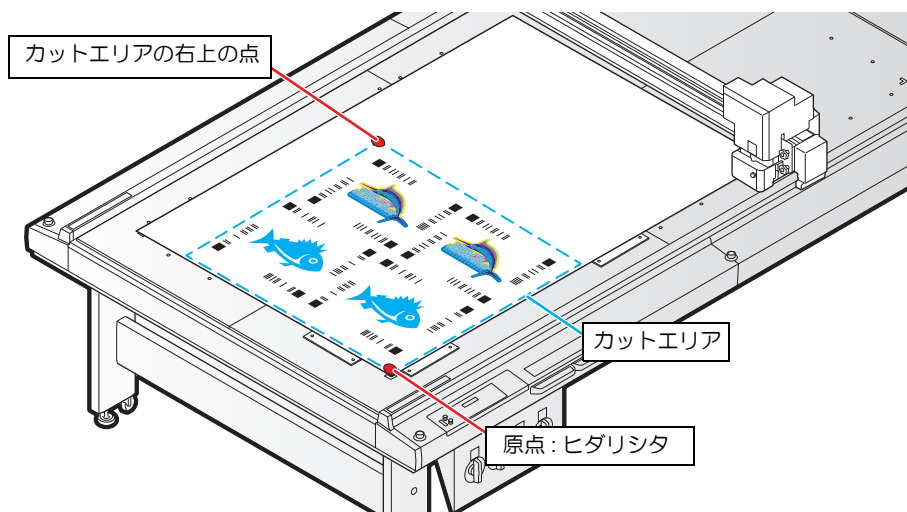
- 印刷したメディアをセットする向きは 0° または 180° にしてください。0° または 180° 以外の向きにセットするとオートカット (複数の種類のトンボデータを自動で連続カットする機能) することができません。

3. カuttingプロッタで原点を設定する。

- (1) ローカルモードで [FUNCTION] キーを押す。
- (2) [↖][↘] を押して [セッテイ] を選択し、[ENTER] キーを押す。
- (3) [↖][↘] を押して [サクスセッテイ] を選択し、[ENTER] キーを押す。
- (4) [↖][↘] を押して [ゲンテン] を選択し、[ENTER] キーを押す。
- (5) [↖][↘] を押して [ヒダリシタ] を選択し、[ENTER] キーを押す。
- (6) [END] キーを押す。

4. カuttingプロッタでカットエリアを設定する。

トンボを含む全てのデータが含まれるようにカットエリアの右上の点を設定してください。



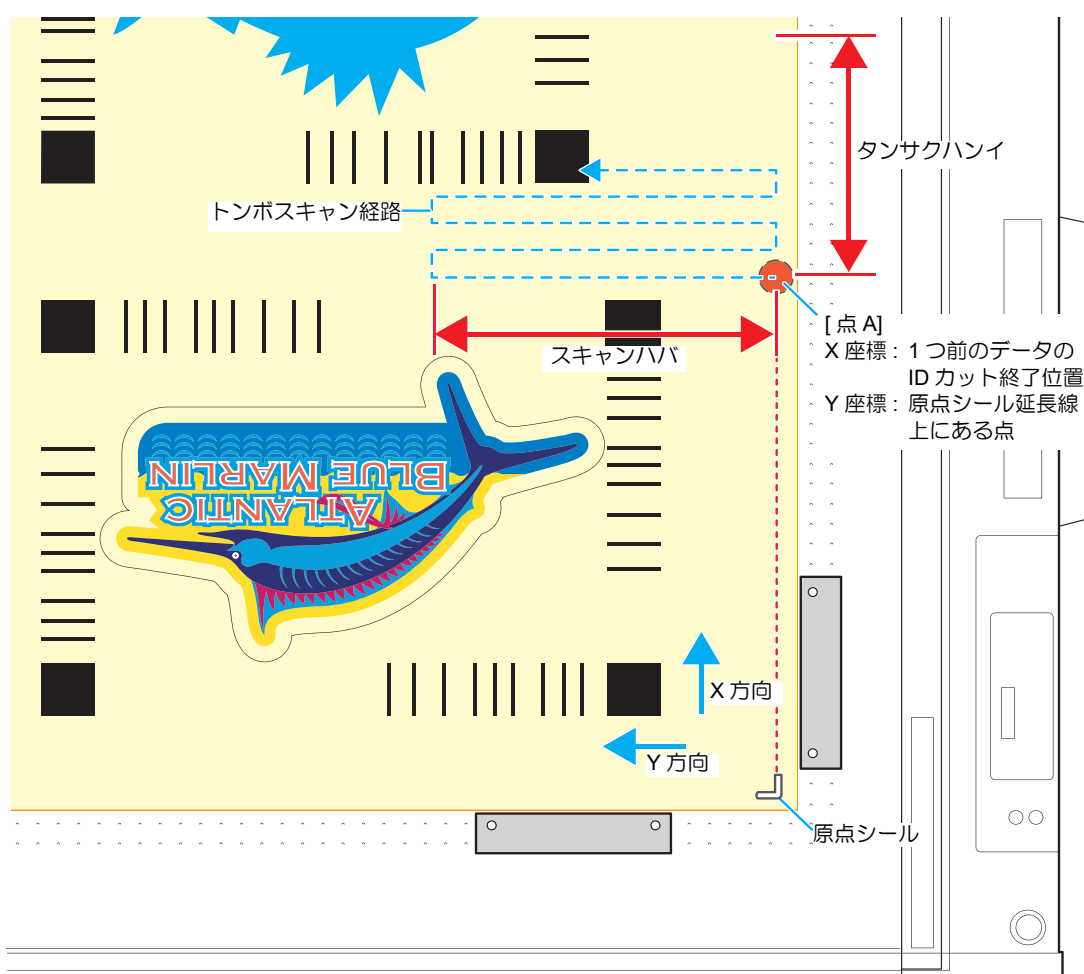
- (1) ローカルモードで [↖][↘][<]> を押してジョグモードに入る。
- (2) [AREA] キーを押す。
- (3) [↖][↘][<]> を押して、カットエリアの右上の点を設定し、[ENTER] キーを押す。
 - しばらくするとローカルモードに戻ります。

5. カuttingプロッタで「トンボタンサク」機能を「オン」にする。

- (1) ローカルで [FUNCTION] キーを押す。
- (2) [^][v] キーを押して [セッテイ] を選択し、[ENTER] キーを押す。
- (3) [^][v] キーを押して [トンボケンシュツ] を選択し、[ENTER] キーを押す。
- (4) [^][v] キーを押して以下の項目を選択し設定する。

項目	値	設定値
トンボタンサク	オン/オフ	“オン”にする。 ・ “オン”にすると、カット終了後に自動で次のトンボデータを探します。“スキャンハバ”と“タンサクハンイ”の設定が必要となります。
スキャンハバ	10 ～ 99 cm	原点シール延長線上にある点 (下図 - 点 A) からのトンボを探索する幅を指定します。 ・ トンボタンサク：オンの場合に有効です。
タンサクハンイ	10 ～ 99 cm	ID カット終了位置 (下図 - 点 A) から次のトンボを探すまでの距離を指定します。 ・ トンボタンサク：オンの場合に有効です。

- ・ トンボタンサク時のスキャンハバ、タンサクハンイについては以下の図をご覧ください。



6. メディア (ワーク) をセットする。

7. トンボ検出すると自動で ID カットが開始される。

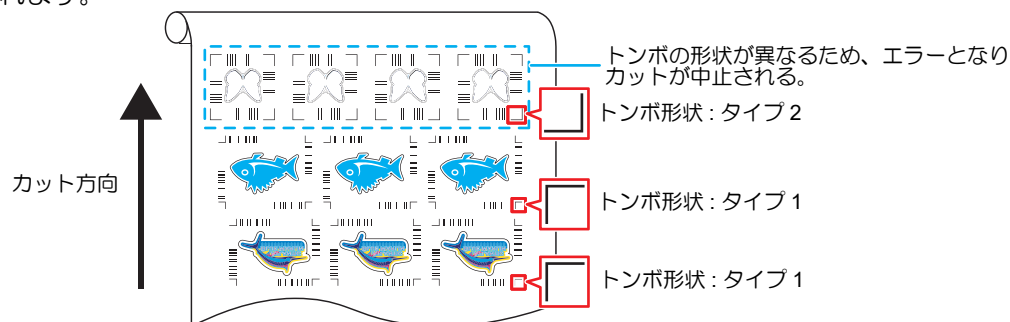
- ・ ID カット後、自動で次のトンボ検出が行われます。

8. データが終わるまで [自動トンボ検出 → ID カット] が繰り返される。

複数の種類のデータを ID カットしたい (CG-FXII Plus、CG-AR シリーズ)

1. RasterLink で複数の種類のデータを印刷する。

- 複数のトンボデータを印刷して連続して ID カットを行う場合、トンボの形状とサイズ、回転角度を全て同じにしてください。サイズまたは形状が異なるトンボがある場合は ID カットが中止されます。



2. 原点を設定する。

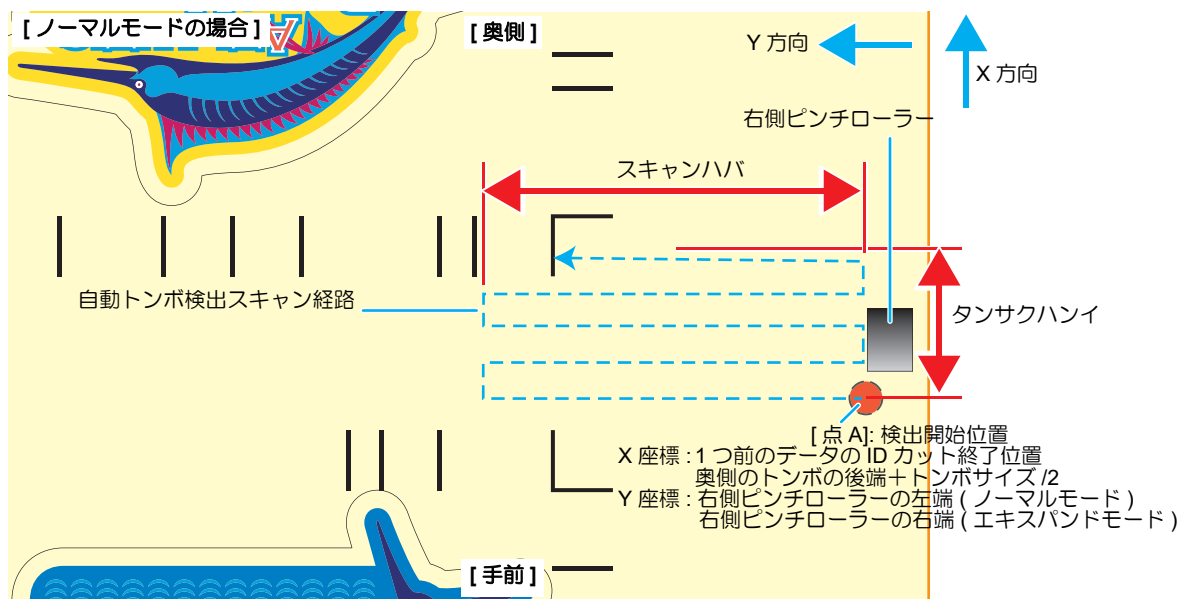
- (1) ローカルモードで [FUNCTION] キーを押す。
- (2) [セッテイ]-[ゲンテンキリカエ] で”ミギシタ”を選択し、[ENTER] キーを押す。
- (3) [END] キーを押す。

3. カッティングプロッタで「トンボタンサク」機能を”ON”にする。

- (1) ローカルモードで [FUNCTION] キーを押す。
- (2) [セッテイ]-[トンボタンサク] を選択し、[ENTER] キーを押す。
- (3) [トンボタンサク] で”ON”を選択する。[スキャンハバ]、[タンサクハンイ] を設定する。

項目	値	設定値
トンボタンサク	ON/OFF	“ON” にする。 • “ON” にすると、カット終了後に自動で次のトンボデータを探します。“スキャンハバ”と”タンサクハンイ”の設定が必要となります。
スキャンハバ	3 cm ～装置幅	右側ピンチローラーの左端 (ノーマルモード: 下図 - 点 A) または右端 (エキスパンドモード) からのトンボを探索する幅を指定します。 • トンボタンサク : ON の場合に有効です。
タンサクハンイ	5 ～ 50 cm	ID カット終了位置 (下図 - 点 A) から次のトンボを探すまでの距離を指定します。 • トンボタンサク : ON の場合に有効です。

- トンボタンサク時のスキャンハバ、タンサクハンイについては次の図をご覧ください。

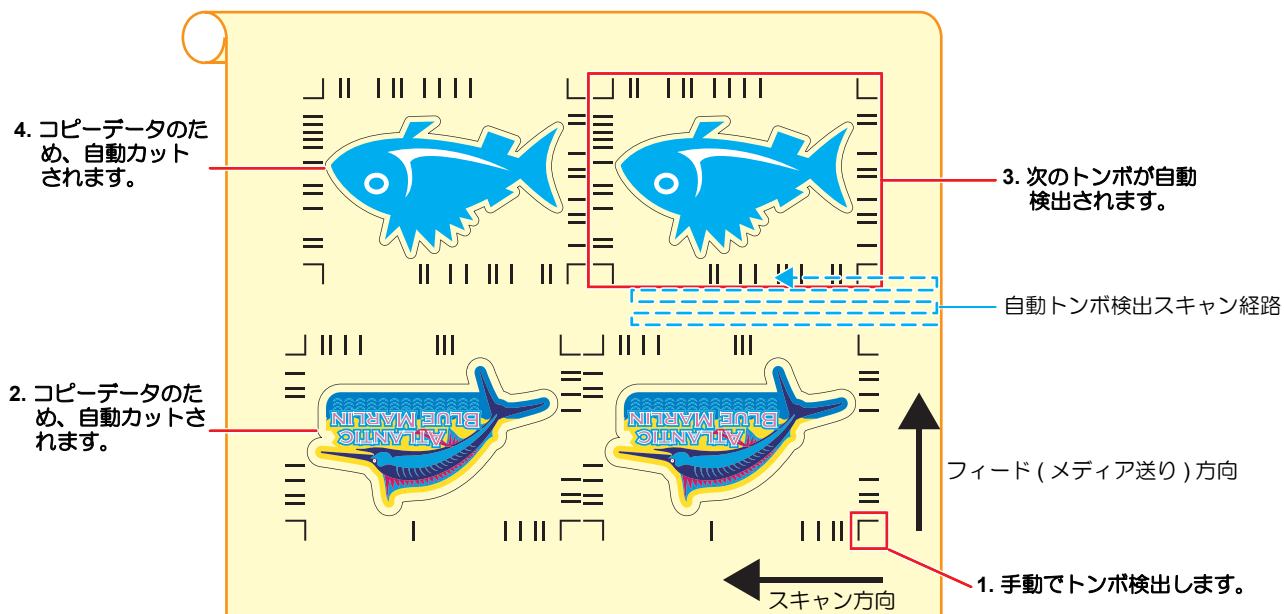


4. シートをセットする。

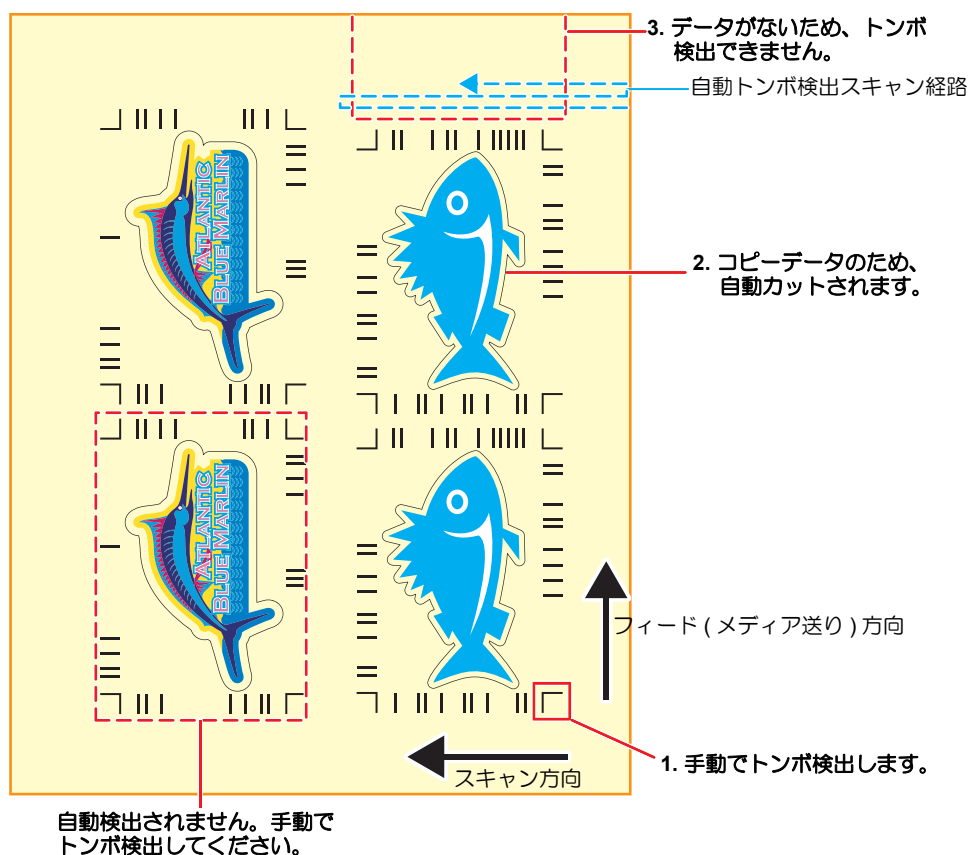
トンボの自動検出方向はフィード (メディア送り) 方向です。

メディア余白が以下の数値になるようにしてください。

- 前端 : トンボ形状 タイプ 1 の場合 : 20mm 以上
トンボ形状 タイプ 2 の場合 : $[20\text{mm} + \text{トンボサイズ} / 2]$ 以上
- 左右端 : 15mm 以上
- 後端 : 40mm 以上



- スキャン方向のトンボ自動検出はできません。スキャン方向にデータを配置した場合は手動でトンボ検出してください。



5. トンボ検出すると自動で ID カットが開始される。

- ID カット後、自動で次のトンボ検出が行われます。

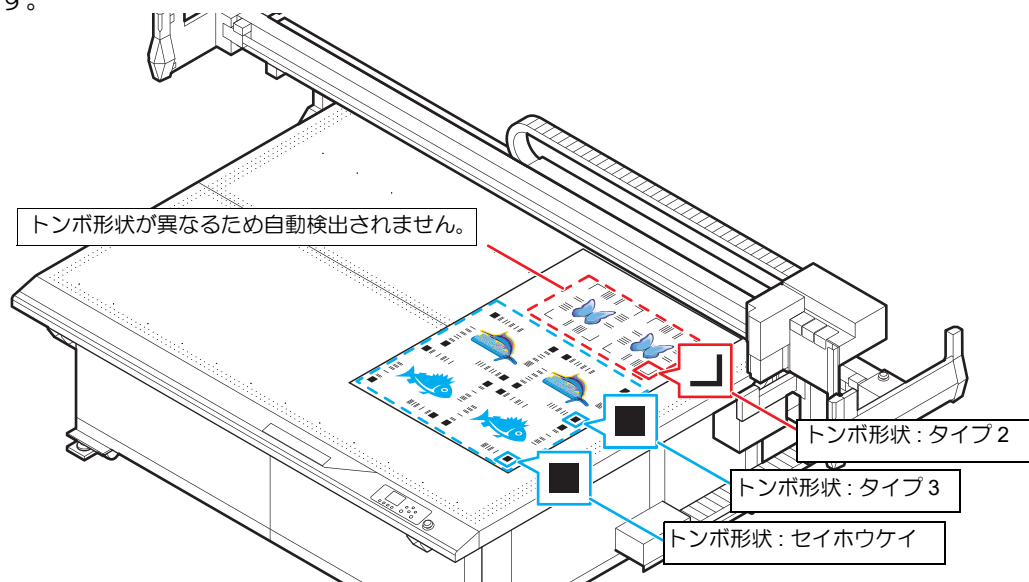
6. データが終わるまで [自動トンボ検出 → ID カット] が繰り返される。

複数の種類のデータを ID カットしたい (CFX シリーズ)

CFX シリーズをお使いの場合に使用できる機能です。

1. RasterLink で複数の種類のデータを印刷する。

- 複数のトンボデータを印刷して連続して ID カットを行う場合、トンボの形状とサイズ、回転角度を全て同じにしてください。サイズまたは形状が異なるトンボがある場合は ID カットが中止されます。

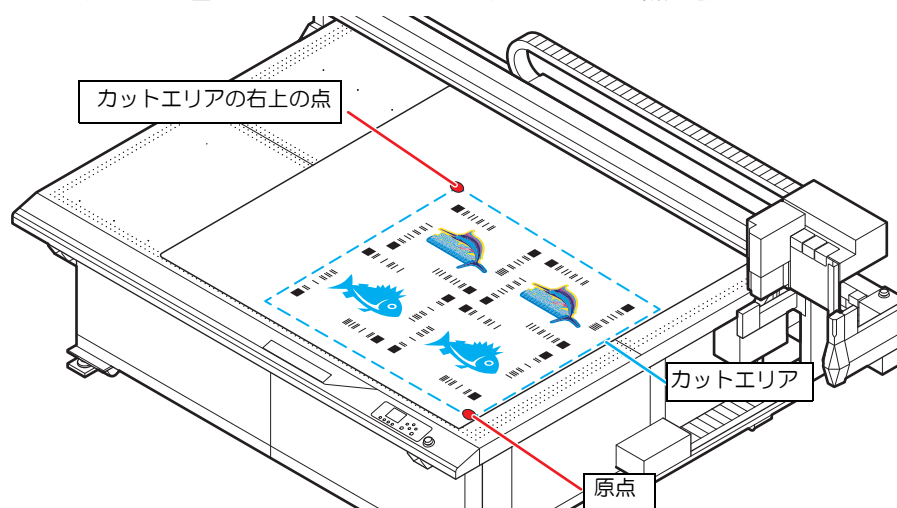


2. カuttingプロッタにメディアをセットする。

- 印刷したメディアをセットする向きは 0° または 180° にしてください。0° または 180° 以外の向きにセットするとオートカット (複数の種類のトンボデータを自動で連続カットする機能) することができません。

3. カuttingプロッタでカットエリアを設定する。

トンボを含む全てのデータが含まれるようにカットエリアの右上の点を設定してください。



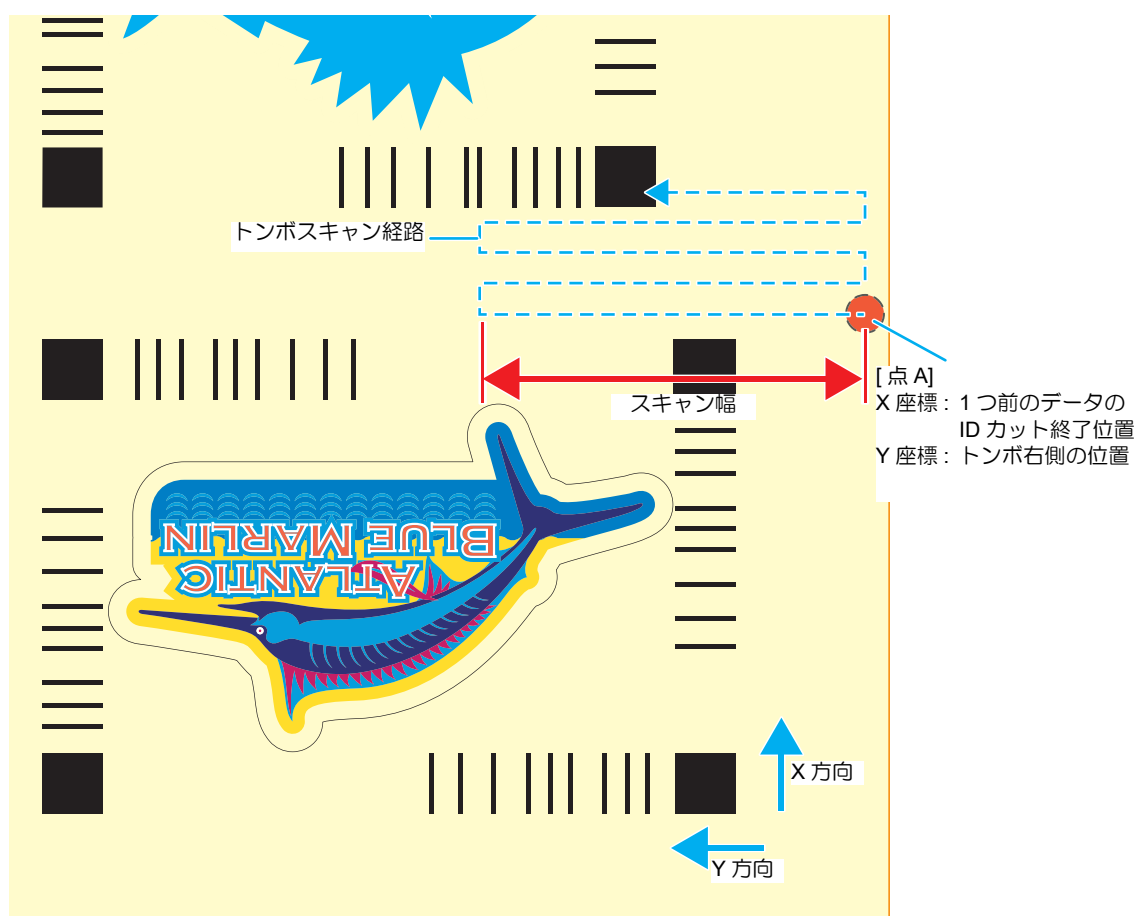
- (1) ローカルモードで [∧][V][<][>] を押してジョグモードに入る。
- (2) [∧][V] を押して、[カットエリア設定] を選択する。
- (3) [∧][V][<][>] を押して、カットエリアの右上の点を設定し、[ENTER] キーを押す。
 - しばらくするとローカルモードに戻ります。

4. カuttingプロッタで「トンボ探索」機能を「オン」にする。

- (1) ローカルで [MENU] キーを押す。
- (2) [↖][↗] キーを押して [設定] を選択し、[ENTER] キーを押す。
- (3) [↖][↗] キーを押して [マシン設定] を選択し、[ENTER] キーを押す。
- (4) [↖][↗] キーを押して [トンボ検出設定] を選択し、[ENTER] キーを押す。
- (5) [↖][↗] キーを押して [トンボ探索] を選択し、以下の項目を選択し設定する。

項目	値	設定値
トンボ探索	オン / オフ	“オン”にする。 ・ “オン”にすると、カット終了後に自動で次のトンボデータを探します。スキャン幅の設定に移行します。
スキャン幅	10 ～ 99 cm	カット終了したデータの後端、トンボの右側の位置にある点 (下図 - 点 A) からのトンボを探索する幅を指定します。 ・ トンボ探索：オンの場合に有効です。

- ・ トンボタンサク時のスキャン/ハバについては以下の図をご覧ください。



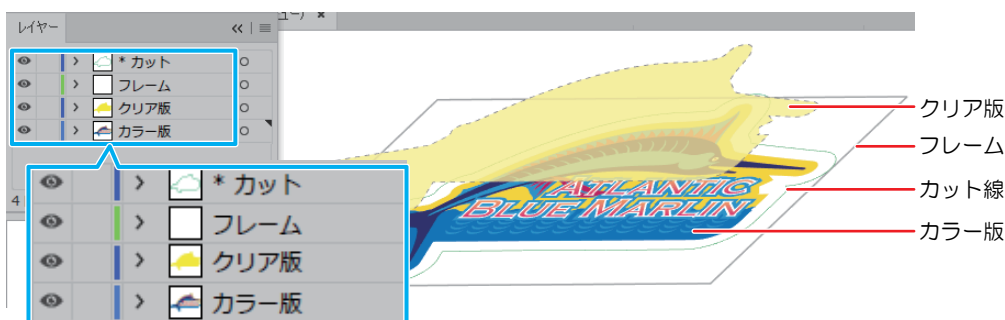
5. メディア (ワーク) をセットする。
6. トンボ検出すると自動で ID カットが開始される。
 - ・ ID カット後、自動で次のトンボ検出が行われます。
7. データが終わるまで [自動トンボ検出 → ID カット] が繰り返される。

クリア/プライマーデータと合成する場合に印刷位置がずれる

カラー用データを FineCut で ID カット出力し、クリア/プライマーデータを Adobe Illustrator で EPS 出力またはドライバ出力します。これらのデータを、RasterLink で読み込むと、カラー用データとクリア/プライマーデータの位置がずれます。

以下の手順で ID カットを行ってください。クリア版を合成する例で説明します。プライマーの場合は、「クリア」を「プライマー」に置換えてお読みください。

1. Adobe Illustrator でカラーデータとクリアデータ、カットデータを作成する。
2. Adobe Illustrator で「フレームレイヤー」にフレーム (四角い枠) を作成する。
 - (1) カラーデータとクリアデータ、カットデータ、これら全てのデータを囲むようにフレームを作成する。
 - (2) フレームを線なし、塗りなしにする。



3. FineCut でカラーデータとカットデータを ID カット出力する。(P.17 「ID データを送信する。」)
 - (1) 各レイヤーの属性を以下の表のように設定する。

Adobe Illustrator			出力
レイヤー名	表示 / 非表示	プリント属性	
カット	表示	OFF	カット
フレーム	表示	ON	印刷
クリア版	非表示	ON	-
カラー版	表示	ON	印刷



- (2) FineCut メニューの [プロット] アイコンをクリックする。



- (3) ID データを送信する。(P.17 「ID データを送信する。」)
 - 使用するプリンタの RasterLink ホットフォルダにデータが送信されます。

4. クリアデータを RasterLink へ出力する。
 - (1) FineCut メニューの [プロッタ/ユーザ設定] アイコンをクリックする。
 - FineCutVer8.7.3 以前のバージョンをお使いの場合に本手順が必要となります。FineCutVer8.7.3 より後のバージョンをお使いの場合は、本手順を行わずに手順 (3) に進んでください。



- (2) プロッタ機種で CJV30、TPC、CJV300/150、CJV300Plus、UCJV300/150 シリーズのいずれかを選択して [設定] をクリックする。

- [RasterLink へ出力 ...] 機能を使用するために、一時的に変更します。
- FineCutVer8.7.3 以前のバージョンをお使いの場合に本手順が必要となります。FineCutVer8.7.3 より後のバージョンをお使いの場合は、本手順を行わずに手順 (3) に進んでください。



- (3) 各レイヤーの属性を以下の表のように設定する。

Adobe Illustrator			出力
レイヤー名	表示 / 非表示	プリント属性	
カット	非表示	OFF	-
フレーム	表示	ON	印刷
クリア版	表示	ON	印刷
カラー版	非表示	ON	-



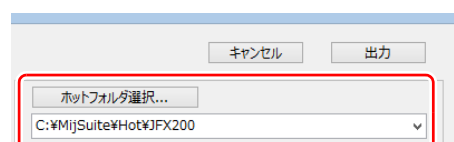
- (4) FineCutメニューの[RasterLinkへ出力...]アイコンをクリックする。



- (5) 手順 3 で ID データを送信した RasterLink ホットフォルダと同じホットフォルダを選択する。

- (6) [出力] をクリックする。

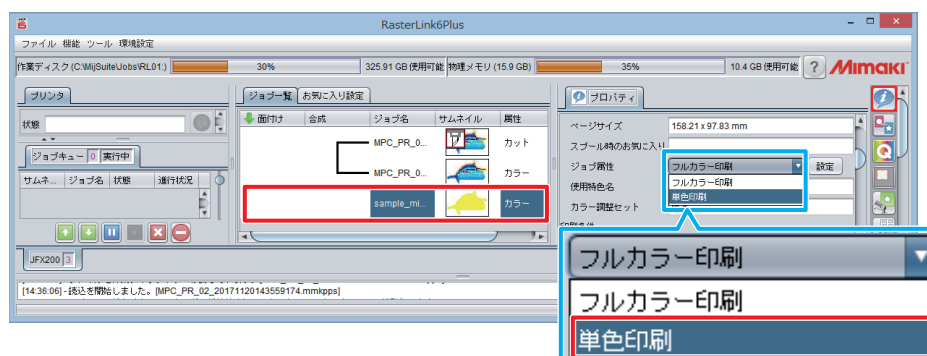
- 使用するプリンタの RasterLink ホットフォルダにデータが送信されます。



5. RasterLink でクリアデータを単色置換する。

- (1) RasterLink で読み込まれた手順 4 のジョブを選択する。

- (2) “ジョブ属性” で [単色印刷] を選択する。

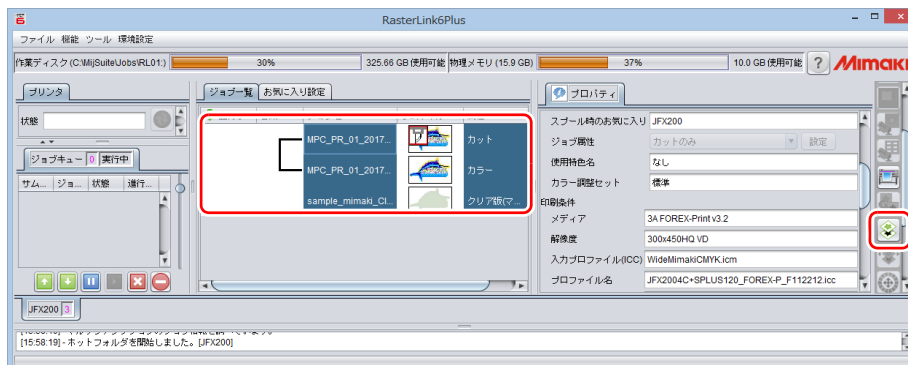


- (3) [ジョブ属性] 画面 - “置換後の色” で [クリア] を選択して [OK] をクリックする。

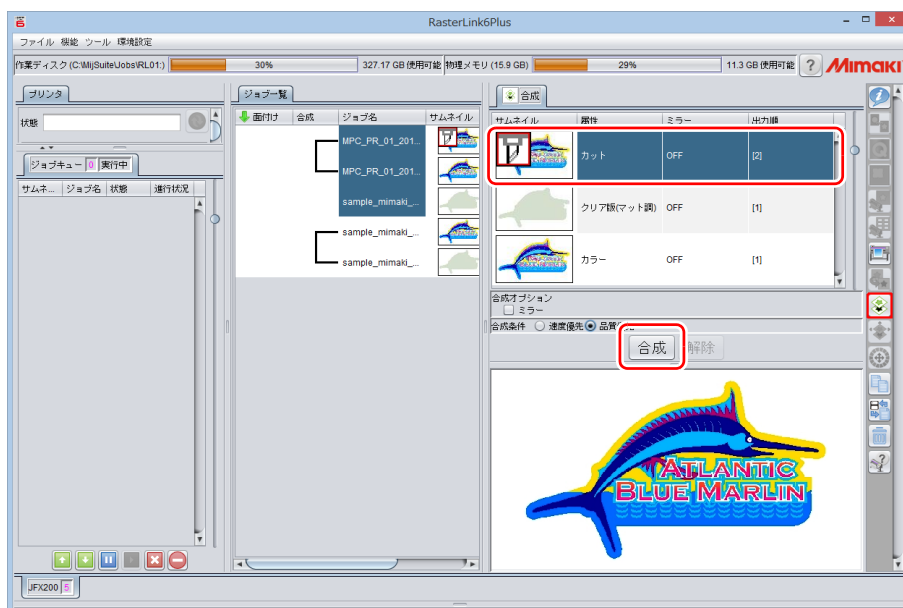


6. RasterLink でジョブを合成する。

- (1) 合成するジョブをジョブ一覧で選択する。
- (2) 画面右の機能アイコン一覧で「合成」アイコンをクリックする。



- (3) カットの出力順を一番最後にして、[合成]をクリックする。
 - ・ カットの出力順を最後 (一番大きい数字) にしないと ID カット出力ができません。

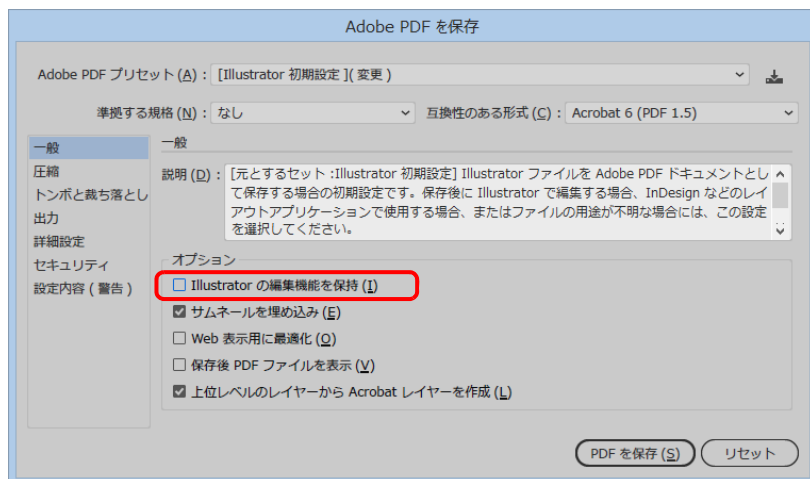


7. トンボと ID データを付加する。(☞ P.32 「トンボと ID データを付加する。」)
8. RasterLink でデータを入力する。(☞ P.19 「6. 印刷データを入力する」)
 - ・ ID 付きデータが印刷されます。
9. カuttingプロッタに印刷済のメディア (ワーク、シート) をセットする。(☞ P.20 「Cuttingプロッタに印刷済のメディア (ワーク、シート) をセットする。」)
10. トンボ検出すると自動で ID カットが開始される。(☞ P.20 「トンボを検出する。」)

PDF 形式で ID カット出力すると、プリントデータが RasterLink に正しく送信されない

PDF形式でIDカット出力したプリントデータが、RasterLinkで欠けたり、真っ白になったりすることがあります。

1. Illustrator アートボード内に、トンボを含めた全てのデータが収まっているかを確認する。
 - 問題が解消されない場合は次の手順に進んでください。
2. ID カット出力するときに表示される PDF オプション画面で「Illustrator の編集機能を保持」のチェックを外す。
 - 「次に開いたときに一部の編集機能が使用できなくなる可能性があります。」メッセージが表示されることがあります。問題ありませんので [OK] をクリックして保存してください。



MEMO:

